

朝霞市国際化基本指針

～みんなで築く国際社会とだれにもやさしい朝霞づくり～

平成 2 1 年 4 月

朝 霞 市



は じ め に

近年、科学技術や情報技術の進展により、経済はもとより生活習慣や文化の異なった多くの人たちが日本を訪れ、地域社会において市民の一員として暮らしています。

昨年秋から始まった世界的な不況の影響で日本に在住する外国人の生活状況が厳しくなっているものの、少子高齢化社会の進展に伴う労働人口の減少により、外国人労働者の増加傾向は今後も続くものと予想されます。また、国の施策で留学生を多く受け入れようとしていることと同時に、国際結婚などの国籍を越えた交流などから、定住を希望している外国人が徐々に増加しております。

本市においても、外国人登録者数が徐々に増えて、平成21年には2,820人に達し、今後も、地域社会に定着していく外国人市民がさらに増えることが予想されます。このため、地域における様々な国際化の取り組みを通して、日本人と外国人がお互いの異なる文化を尊重し、共に住みよい地域社会を築く必要があります。

そこで、本市では、市民の方々を交えた「朝霞市国際化基本指針策定委員会」を設置して、外国人の方も含めた市民・行政・関係機関・企業等が協働して国際化に取り組めるような新しい指針（ガイドライン）について、検討を進めてまいりました。この間、日本人市民と外国人市民の双方を対象としたアンケートの実施やパブリックコメントの募集により、市民の皆様のご意見やご要望を反映できるよう努めました。

このほど指針が策定されましたので、今後は指針の目標である「みんなで築く国際社会とだれにもやさしい朝霞づくり」に基づき、市民・関係機関・企業等と行政が連携して地域の国際化に取り組んでまいります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本指針の策定にあたりまして、ご審議いただきました策定委員の皆様、アンケートやパブリックコメントに貴重なご意見・ご提言をお寄せいただきました市民の皆様をはじめ、指針の策定にご協力いただきました多くの皆様に心から感謝申し上げます。

平成21年4月

朝霞市長 富岡 勝則

目次

はじめに

第 1 章 策定にあたって	・ ・ ・ 1
1 策定の背景	・ ・ ・ 1
2 朝霞市の現状と課題	・ ・ ・ 2
3 基本的な考え方	・ ・ ・ 4
第 2 章 国際化施策の体系	・ ・ ・ 6
第 3 章 国際化施策の方向	・ ・ ・ 7
1 国際相互理解の推進	・ ・ ・ 7
2 多文化共生社会の構築	・ ・ ・ 9
3 国際化推進体制の整備	・ ・ 1 3
第 4 章 国際化施策の推進	・ ・ 1 5

【資料】

朝霞市国際化基本指針策定に伴う市民意識調査(日本人対象)の概要	・ ・ ・ 1 7
朝霞市国際化基本指針策定に伴う市民意識調査(外国人対象)の概要	・ ・ ・ 3 0
朝霞市における国際化の取り組みの一例	・ ・ ・ 4 8
朝霞市国際化基本指針の策定経過	・ ・ ・ 4 9
朝霞市国際化基本指針策定委員会設置要綱	・ ・ ・ 5 0
朝霞市国際化基本指針策定委員会名簿	・ ・ ・ 5 1

第1章 策定にあたって

1 策定の背景

近年、科学技術・情報技術が急速に発達するにしたがって、国境を越えた経済・文化・情報などのやり取りが盛んになっています。このような環境の中で、市民個人が直接国際社会で活動する機会が多くなっています。また、国際社会において、各国は相互に協調関係を進めており、市民一人ひとりにも国際社会の一員としての自覚が求められるなど、国際化が進んでいます。

国内では、1990(平成2)年の出入国管理及び難民認定法(入管法)改正による在留資格の再編や外国人研修・技能実習制度により、居住・滞在する外国人が全国的に増加しています。

しかし、日本に在住する外国人の急増に反して、現行の国の各種制度が外国人受入れに関する課題に充分対応していないため、市民サービスの直接の提供者である地方自治体は様々な問題に直面しており、朝霞市も例外ではありません。

今後は少子高齢社会の進展に伴う労働人口の減少により、外国人労働者への依存が進むばかりでなく、国の施策で留学生を多く受け入れようとしていることから、日本全体はもとより、朝霞市に居住・滞在する外国人はますます増加することが予想されます。

また、一方では国籍を超えた交流などから、定住を希望する外国人が徐々に増加していくことが考えられます。これらのことから、朝霞市においても国際化に対応したまちづくりを進め、外国人市民と日本人市民とが共に豊かに暮らせる「共生社会」の構築が求められています。

2 朝霞市の現状と課題

朝霞市は、東京近郊に立地していることと交通の利便性により、外国人登録者は2004（平成16）年と比べて約17%増加しており、2008（平成20）年1月1日現在で人口の2.1%（2,634人）、世帯数の3.6%（2,009世帯）を占めています。

第4次朝霞市総合振興計画の施策大綱の一つである「ふれあいと連帯を広げる地域づくり（交流・コミュニティ）」の中の「国際化」において、①外国人が暮らしやすいまちづくり、②国際理解の推進の二つの柱を掲げています

その中で、本市は、外国人向け市民ハンドブックの刊行と配布など日常生活における情報の提供や、中学生の海外体験による国際理解教育等の推進を図るとともに、市内のNPO団体との協働により国際協力事業を展開してきました。

また、市民レベルでは、多年にわたり市民団体による国際交流活動や日本語学習支援などが活発に行われており、地域における国際化の先導役としての役割を担い、その実績は高く評価されています。

一方で、今回の指針策定に当たり、日本人市民と外国人市民を対象に市民意識調査のアンケートを実施した結果、主なものとして次のような現状と課題が浮き彫りになりました。

- ① 外国人市民では、在日年数が5年以上10年未満の方が約3割で最も多く、朝霞市に住み続けたいという方が64.1%と定住志向が高い。
- ② 外国人市民には、言葉や文化の違いによる問題で困っている方が多い。
- ③ 外国人市民の間では、市の行政サービスについての認知度が低い。
- ④ 外国人市民では何らかの形で日本人と交流したいと回答した方が9割以上だったのと対照的に、日本人市民では外国人と交流したいと回答した方が4割以下と、外国人と日本人との意識に差がある。

このような現状の中で、今後、本市が国際化を推進していくには、外国人を地域社会の一員として受け入れる体制を整備し、外国人が社会に参画する仕組みを構築するなど、外国人も含めた市民・行政・関係機関・企業等が協働して取り組めるような新しい指針(ガイドライン)の策定が必要です。

表1 市内在住外国人登録者数

年	2004(平成16)年	2005(平成17)年	2006(平成18)年	2007(平成19)年	2008(平成20)年
世 帯 数	1,679世帯	1,795世帯	1,786世帯	1,835世帯	2,009世帯
人 口	2,244人	2,393人	2,373人	2,401人	2,634人
男	1,051人	1,109人	1,111人	1,132人	1,238人
女	1,193人	1,284人	1,262人	1,269人	1,396人

* 増加率 : 2008（平成20）年1月1日の外国人登録人口2,634人 ÷ 2004（平成16）年1月1日の外国人登録人口2,244人 = 1.1737 ≒ 17%

表2 国籍別外国人登録者数

国 籍	2004(平成 16)年	2005(平成 17)年	2006(平成 18)年	2007(平成 19)年	2008(平成 20)年
中国	7 6 4 人	8 5 3 人	9 4 4 人	1,0 0 7 人	1,1 5 5 人
韓国・朝鮮	4 6 3 人	4 6 6 人	4 5 5 人	4 8 1 人	5 4 0 人
ブラジル	3 1 1 人	3 1 4 人	2 8 9 人	2 6 8 人	2 7 4 人
フィリピン	2 8 3 人	3 2 1 人	2 8 0 人	2 5 8 人	2 7 4 人
アメリカ	4 3 人	4 7 人	5 2 人	4 5 人	4 6 人
イギリス	3 2 人	2 9 人	2 4 人	2 0 人	2 2 人
パキスタン	4 0 人	4 4 人	2 9 人	2 5 人	2 1 人
ペルー	2 8 人	2 8 人	2 0 人	2 3 人	1 5 人
その他の国籍	2 7 6 人	2 8 8 人	2 7 8 人	2 7 2 人	2 8 5 人
無国籍	4 人	3 人	2 人	2 人	2 人
合 計	2,2 4 4 人	2,3 9 3 人	2,3 7 3 人	2,4 0 1 人	2,6 3 4 人

* 全体で60か国

3 基本的な考え方

(1) 第4次朝霞市総合振興計画

2006(平成18)年3月に策定された第4次朝霞市総合振興計画の施策大綱の一つである「ふれあいと連帯を広げる地域づくり(交流・コミュニティ)」の中の「国際化」において、

- ① 外国人が暮らしやすいまちづくり
- ② 国際理解の推進

の二つの柱を掲げ、国際化に向けた取り組みを推進していくことを定めています。

(2) 地域における多文化共生推進プラン

2006(平成18)年3月には総務省が「地域における多文化共生推進プラン」を策定しています。このプランにおいては、「地域における多文化共生施策の基本的考え方」として、以下の4点が挙げられています。

① コミュニケーション支援

日本語の習得が困難なことによって様々な不便と問題が生じているため、外国人市民へのコミュニケーションの支援を行います。

② 生活支援

外国人市民が地域において生活するために必要な環境を整えるために、生活全般にわたっての支援を行います。

③ 多文化共生の地域づくり

外国人市民が地域社会のルールをよく知らなかったり、日本人市民が異文化を十分に理解していないことにより、地域社会の中で外国人市民が孤立したり、日本人市民との間に誤解やトラブルが生じることもあります。

そこで、地域社会全体にわたって意識啓発を働きかけます。また、外国人市民の自立を促進する地域づくりを行います。

④ 多文化共生施策の推進体制の整備

①～③の施策を遂行するための体制整備を図るとともに、市民・行政・関係機関・企業等の役割分担を明確化し、連携・協働を図ります。

＊ 多文化共生：異なる国籍・民族の人々が互いの文化の違いを認め合い、対等なパートナーとして、共に地域社会を支えていくこと。

(3) 朝霞市国際化基本指針策定の基本的な考え方

経済・社会・文化・スポーツなどが国を越え自由に交流しあう時代にあって、生活習慣や文化の異なった多くの人たちが日本を訪れ、地域社会においても市民の一員として共に暮らし、地域社会を構成しています。

このような中で、市民一人ひとりが国際化社会の一員であることを認識し、国際化に対応した地域づくりを進めることが求められています。

朝霞市での国際化は、市民にとってまだまだ身近なものとはなっていませんが、市民団体の活動や、地域における様々な国際交流活動、国際化への取り組みを通して市民の異なる文化への理解と国際感覚の醸成を図ることにより、日本人市民はもとより地域で暮らす外国人市民にとっても住みよいまちを目指すことが必要です。そのためには、市民・行政・関係機関・企業等が協働を図りながら国際化を推進していく必要があると考えます。

国際化を進める上で、「**みんなで築く国際社会とだれにもやさしい朝霞づくり**」を目標に掲げ、その推進に当たっては、「第4次朝霞市総合振興計画」及び「地域における多文化共生推進プラン」を包括的に取り込んだ上で、各項目を体系化し、より実効性のある指針にしていきます。

第2章 国際化施策の体系

1 国際相互理解の推進

(1) 交流活動の推進

- ① 地域における国際交流活動の推進
- ② 海外との交流・協力の促進

(2) 国際理解教育の推進

- ① 国際化に対応する外国語教育の推進
- ② 異なる文化の理解

みんなで築く
国際社会と
だれにもやさしい
朝霞づくり

2 多文化共生社会の構築

(1) 外国人市民も暮らしやすいまちづくり

- ① 外国人市民の生活環境の整備
- ② 外国人市民の自立・社会参画への支援

(2) 国際化に貢献できる人材の育成・支援

- ① 市民団体の育成・支援
- ② ボランティアの活用

3 国際化推進体制の整備

(1) 市民との協働

- ① 市民や市民団体との連携

(2) 行政の組織体制の整備

- ① 行政の国際化

(3) 関係機関との連携

- ① 関係機関や市民団体との連携強化

第3章 国際化施策の方向

1 国際相互理解の推進

(1) 交流活動の推進

① 地域における国際交流活動の推進

文化や習慣などの違う社会で生活することは、誰にとっても多くの障壁があります。それだけにその土地で親切にされると、喜びも一層大きいものとなります。そのため、外国人への支援を行うことは、地域における、国際貢献の一つであり、市民交流によって培われるこころの結びつきは、地域社会のみならず、ひいては日本の大きな力になると思われます。

したがって、市民や国際交流・協力団体が主体的に取り組んできた多種多様な国際交流・協力活動の実績を踏まえ、更なる活動の促進と団体間の連携強化を図るとともに、情報の共有化を図り、相互理解と交流を市全体の課題として取り組む必要があります。

推進項目)

- ア 外国人との交流イベントの開催
- イ 外国人のホームステイ受入れの促進
- ウ 市民団体の活動の促進、情報の提供
- エ 市民団体間の連携強化

② 海外との交流・協力の促進

海外との交流は、広く多様な交流を通して、市民生活の豊かさにつながり、地域づくりに寄与していくことが重要です。

すなわち、異なった歴史や文化、そしてその地域の自然や市民生活に触れることにより相互理解を深め、国際的な視野を広げるとともに、経済活動を促し、地域の活性化に貢献することが期待されます。

また、様々な交流機会を通して、国際社会の一員であることの認識をもち、地球規模で問題となっている平和・人権・環境問題などに対し、国際協力の心を育むことも重要です。

推進項目)

- ア 海外との相互交流の促進
- イ 市民団体による外国との教育・スポーツ・文化等の相互交流の促進

(2) 国際理解教育の推進

① 国際化に対応する外国語教育の推進

社会のグローバル化が進む中で、地域社会を取り巻く環境も刻々と変化しています。次代を担う若い世代に国際理解の機会を提供し、国際感覚を身につけてもらうことにより、朝霞市の国際化の推進が期待されます。

小中学校における英語指導助手等による授業など、外国語教育の充実を図るとともに、生涯学習においても外国語教育の充実を図ります。

推進項目)

- ア 小中学校における英語指導助手（AET）等の活用
- イ 外国語を学ぶ場と機会の充実

② 異なる文化の理解

国際感覚を磨き、国際理解を深めるためには、積極的に外国の文化に触れる姿勢が必要です。そのことはまた、日本の文化へ目を向けることも意味し、多文化共生が促進されることにつながります。

こうしたことから、学校教育と生涯学習の両面で国際理解のための学習機会の充実を図ります。

推進項目)

- ア 小中学校における外国人講師等による国際理解授業の充実
- イ 外国の文化を学ぶ場の充実
- ウ 外国人市民への日本文化の紹介
- エ 朝霞の文化・歴史を理解する多様な機会の充実

2 多文化共生社会の構築

(1) 外国人も暮らしやすいまちづくり

① 外国人市民の生活環境の整備

多くの外国人市民は、言語や生活習慣の違いから生活していく上で様々な課題を抱えているので、日本語の習得や日本文化の理解を高めるために、コミュニケーション面の支援を行う必要があります。

外国人市民が、地域の構成員として地域づくりのパートナーとなりうるためには、安心・安全で自立した生活ができることが前提です。そのためには、外国人市民の生活全般にわたって継続的な支援が必要です。

また、外国人市民の中には、地域社会の中で孤立したり、日本人市民との間に誤解やトラブルが生じてしまう可能性もあることから、地域社会に対する意識啓発を促進する必要もあります。

推進項目)

1 コミュニケーション支援

(1) 地域における情報の多言語化

- ア 多様な言語、多様なメディアによる行政・生活情報の提供
- イ 公共施設等の標識・案内板の多言語表示
- ウ 外国人市民のための相談窓口の充実
- エ 通訳等ボランティアの人材確保

(2) 日本語及び日本社会に関する学習支援

- ア 日本語及び日本社会に関する学習機会の提供

2 生活支援

(1) 居住環境

- ア 住居に関する情報提供、入居差別の解消
- イ 地域における外国人市民へのサポート

(2) 教育環境

- ア 日本語の学習支援
- イ 外国人の保護者と学校間の良好なコミュニケーションの確保
- ウ 進路指導及び就職支援
- エ 多文化共生の視点に立った国際理解教育の推進

(3) 労働環境

- ア 企業に対する啓発活動の推進
- イ 外国人労働者に対する情報提供・啓発

(4) 医療・保健・福祉

- ア 医療・保健・福祉における多言語対応

(5) 防災

- ア 災害等への対応
- イ 災害時の通訳ボランティアの育成・支援
- ウ 災害時の外国人への情報伝達手段の多言語化、多様なメディアとの連携

3 多文化共生の地域づくり

- ア 地域住民等に対する多文化共生の啓発
- イ 国際化関連団体・機関のネットワークづくりの支援

② 外国人市民の自立・社会参画への支援

外国人市民が、地域の構成員として地域づくりのパートナーとなりうるためには、外国人市民が社会に参画していくための仕組みづくりを考えていく必要があります。市政への参画機会を提供すること等の積極的な取り組みが求められています。

そのことから、外国人市民の意向を尊重しながら、必要な支援策を講じるため外国人の意見を広く反映できる仕組みを構築していきます。

また、外国人市民の地域社会（自治会・町内会、商店街、PTA等）への参加を促進し、地域社会に貢献できる人づくりを推進します。

さらに、外国人市民が地域住民として主体的に活動できるよう、外国人市民のネットワークや自主活動グループ等への支援を行います。

推進項目)

- ア 外国人市民の地域社会への参画の促進
- イ 外国人市民の意見を市の施策に反映させる取り組み
- ウ 外国人市民ネットワーク構築への支援

（２）国際化に貢献できる人材の育成・支援

① 市民団体の育成・支援

指針を効果的に進めるためには、市民や市民団体等と行政との連携と協働が重要です。

このためには、豊富な経験や技術を持った人材の活用を図り、多様化する国際交流や国際協力を担うリーダーの養成を図るとともに、市民や市民団体等と連携を深めることに努めます。

推進項目)

- ア 市民団体の把握と相互連携の仕組みづくり
- イ 国・県や民間の国際化関係機関の制度や事業等に関する情報の提供
- ウ 市民団体が実施する事業への支援

② ボランティアの活用

国際的なまちづくりを進めるには、市民が国際理解を深め、国際交流や国際協力について興味を持つことが大切です。

しかし、交流について学習を深めても、それを活かす機会がなければ国際的なまちづくりが進めることができたとは言えません。そこで、外国人を含めたボランティアが容易に参加・参画できる活動の場を提供していきます。

また、市内には、海外居住経験者や日本語が堪能な外国人市民など、多彩な能

力を持つ市民が数多く居住しています。こうした優れた人材の活用を図るとともに、NPO・NGOとの連携により、通訳等のボランティアを育成、支援します。

推進項目)

- ア 国・県や民間の国際化関係機関等が開催するボランティア養成講座についての
情報提供
- イ ボランティアの育成
- ウ ボランティアの登録と活用

3 国際化推進体制の整備

(1) 市民との協働

① 市民や市民団体との連携

市内には、国際交流や国際協力に取り組む市民団体、外国人市民を支援する市民団体などが活動を展開し、様々な形態で地域の国際化を進めています。

このような団体と行政それぞれのノウハウを活かし、互いに活用することで連携を図り、対等なパートナーとして、協働して地域の国際化を推進していきます。

推進項目)

ア 市民や市民団体との連携と支援

(2) 行政の組織体制の整備

① 行政の国際化

職員一人ひとりが、豊かな国際感覚を備えると同時に、国籍にかかわらず、市内に住むすべての人が地域社会の一員であり、朝霞市民であるとの認識をしっかりと持ち、様々な行政の国際化に伴う課題に対応できるよう、職員研修の充実や人材育成に努めています。

また、計画の推進にあたっては、総合的かつ効果的に行うため、庁内の横断的な組織体制の整備に努めます。

推進項目)

ア 国際化に関する職員研修体制の充実

イ 庁内関係各課との連携強化

(3) 関係機関との連携

① 関係機関や市民団体との連携強化

埼玉県・埼玉県国際交流協会等の関係機関や市民団体と連携し、国際政策の専門家や国際交流員、ボランティアなど民間の人材の活用を図ります。

また、人材の育成・支援をはじめ、広く外国人市民の生活環境の整備や社会参画のために他の自治体、警察、保健・医療・福祉機関、ハローワーク、民間企業や民間団体、そして市民の主体的な参加と協力を促進します。

推進項目)

ア 関係機関との連携強化

- * 国際交流員:地域レベルの国際交流推進を図るため招致した外国人の青年で、翻訳・通訳のほか、異文化理解のための交流活動などを行う。

第4章 国際化施策の推進

国際化施策の推進にあたっては、多言語による情報提供や日本語学習などのコミュニケーション支援を優先課題とするとともに、他の取り組みについても計画的に進めていきます。実施に際しては、市民・行政・関係機関・企業等がそれぞれの役割を認識しつつ、協働して国際化を推進するものとします。

なお、本指針に関しては、今後、市民と行政等が朝霞市の国際化を推進するための具体的な活動・社会状況の変化などを見据え、必要に応じて見直していきます。

【 資 料 】

朝霞市国際化基本指針策定に伴う市民意識調査 (日本人対象)の概要

1 調査の目的・設問の趣旨

本指針策定の資料とするため、日本人市民の国際化に対するイメージ・参加意識、国際化に係る要望、外国人市民や外国に対するイメージや交流の経験等についての項目を設定しました。

2 調査日程

平成20年7月 9日(水) 調査依頼文・回答用紙・返信用封筒を一斉郵送
7月11日(金) 回答用紙回収(返送)開始
7月30日(水) 礼状兼回答依頼郵送
8月12日(火) 回答用紙回収(返送)終了

3 調査方法

回答用紙 : A3裏表1枚に質問と回答欄を併記
調査項目数 : 12項目
回答方法 : 選択方式(10項目)及び記述方式(2項目)
配布数 : 300通
抽出方法 : 住民基本台帳よりコンピューターによる無作為抽出
抽出対象 : 日本国籍、男女両方、世帯主以外も含む
抽出範囲 : 平成20年7月1日現在で朝霞市の住民であること
抽出条件 : 平成20年4月1日現在で18歳～79歳
(平成2年4月1生まれ～昭和3年4月3生まれ)
比率 : ランダム
男女比率 : 人口比率
年齢比率 : 人口比率
抽出件数 : 300人
抽出作業日 : 平成20年7月7日(月)

4 回答結果

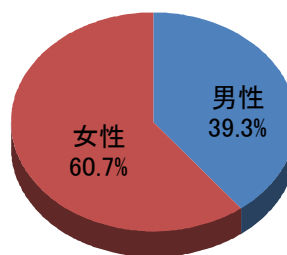
配布数 : 300通
回答数 : 89通
回答率 : $89通 \div 300通 = 29.7\%$

5 注意事項

パーセンテージの表示は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを記載しました。そのため、合計が100%にならないところがあります。

問１．あなたの年齢・性別・ご住所をご記入ください。

項目	合計	割合
男性	35人	39.3%
女性	54人	60.7%
合計	89人	100.0%



項目	男性	女性	合計	割合
本町	4人	3人	7人	7.9%
仲町	3人	4人	7人	7.9%
栄町	4人	5人	9人	10.1%
幸町	1人	0人	1人	1.1%
膝折町	1人	5人	6人	6.7%
溝沼	3人	2人	5人	5.6%
根岸台	4人	8人	12人	13.5%
岡	1人	2人	3人	3.4%
東弁財	1人	3人	4人	4.5%
西弁財	0人	1人	1人	1.1%
三原	2人	2人	4人	4.5%
泉水	0人	3人	3人	3.4%
北原	1人	0人	1人	1.1%
西原	0人	0人	0人	0.0%
浜崎	1人	1人	2人	2.2%
朝志ヶ丘	5人	10人	15人	16.9%
宮戸	0人	1人	1人	1.1%
田島	2人	1人	3人	3.4%
上内間木	0人	0人	0人	0.0%
下内間木	0人	0人	0人	0.0%
自衛隊	0人	0人	0人	0.0%
大字根岸	1人	0人	1人	1.1%
無回答	1人	3人	4人	4.5%
合計	35人	54人	89人	100.0%

年齢	男性		女性		合計		合計 回収率	アンケート集計構成比 (合計回収数／89通)
	抽出数	回収数	抽出数	回収数	抽出数	回収数		
18・19歳	4人	0通	3人	1通	7人	1通	14.3%	1.1%
20歳～	29人	7通	24人	9通	53人	16通	30.2%	18.0%
30歳～	37人	3通	33人	7通	70人	10通	14.3%	11.2%
40歳～	32人	7通	25人	11通	57人	18通	31.6%	20.2%
50歳～	25人	7通	19人	6通	44人	13通	29.5%	14.6%
60歳～	22人	6通	22人	13通	44人	19通	43.2%	21.3%
70～79歳	13人	5通	12人	5通	25人	10通	40.0%	11.2%
無回答	0人	0通	0人	2通	0人	2通	—	2.2%
合計	162人	35通	138人	54通	300人	89通	29.7%	99.8%

女性よりも男性の方が抽出は多かったにも関わらず、女性の回収率が高いものでした。

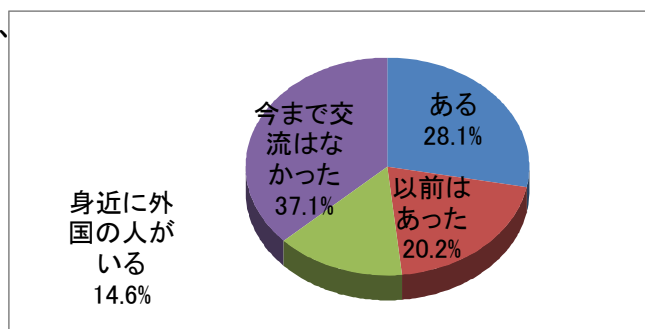
(60歳代女性の回収率は約6割です。)

50歳代以上の方の回答が約半数を占めていますが、40歳未満の若い世代からの回答も約3割です。

問２．現在朝霞市では外国人居住者が増えていますが、あなたの日常生活の中で外国の人との交流はありますか。

項目	合計	割合
ア ある	25件	28.1%
イ 以前はあった	18件	20.2%
ウ 直接の交流はないが身近に外国の人がいる	13件	14.6%
エ 今まで交流はなかった	33件	37.1%
合計	89件	100.0%

過去、現在にわたって外国の人との交流がある方、直接の交流はなくても外国人の存在を身近に感じている方を合わせると約6割です。

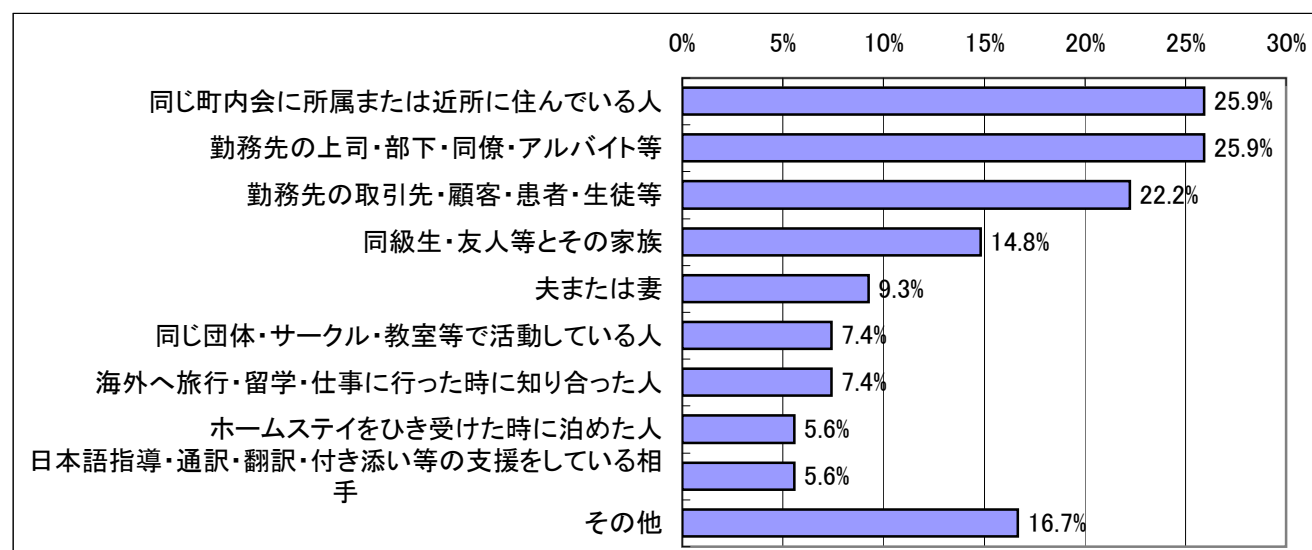


問３．それはあなたとどのような関係にある方ですか。（次の中から、あてはまる答えをいくつでも選んでください。）

※ この設問は、問２でア～ウを選択した５６名に回答をお願いしているものです。

※ この割合は、５６名から無回答２名を除いた合計５４名で集計しています。

項目	合計	割合
ア 夫または妻	5件	9.3%
イ 同じ町内会に所属または近所に住んでいる人	14件	25.9%
ウ 同級生・友人等とその家族	8件	14.8%
エ 勤務先の上司・部下・同僚・アルバイト等	14件	25.9%
オ 勤務先の取引先・顧客・患者・生徒等	12件	22.2%
カ 同じ団体・サークル・教室等で活動している人	4件	7.4%
キ 海外へ旅行・留学・仕事に行った時に知り合った人	4件	7.4%
ク ホームステイをひき受けた時に泊めた人	3件	5.6%
ケ 日本語指導・通訳・翻訳・付き添い等の支援をしている相手	3件	5.6%
コ その他	9件	16.7%
合計	76件	—



外国人と仕事で知り合った方が約50%となっています。

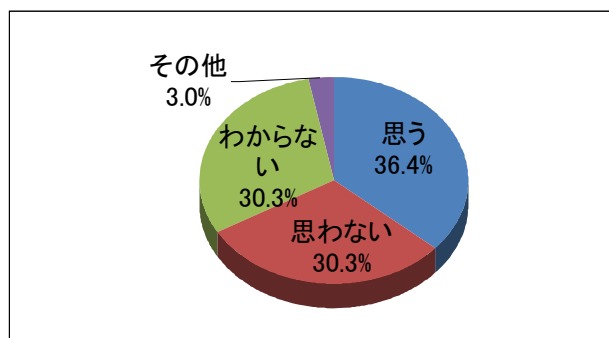
・その他回答…家族。同じ趣味を楽しむ仲間。英会話スクール。

問４．機会があれば、外国人の市民または市外の外国人と交流をしたいと思いますか。（次の中から、あてはまる答えを１つ選んでください。）

※ 問２でエを選択した３３名に対しての質問をお願いしているものです。

項目	合計	割合
ア 思う	12件	36.4%
イ 思わない	10件	30.3%
ウ わからない	10件	30.3%
エ その他	1件	3.0%
合計	33件	100.0%

設問に対して、それぞれの答えがほぼ同数でした。

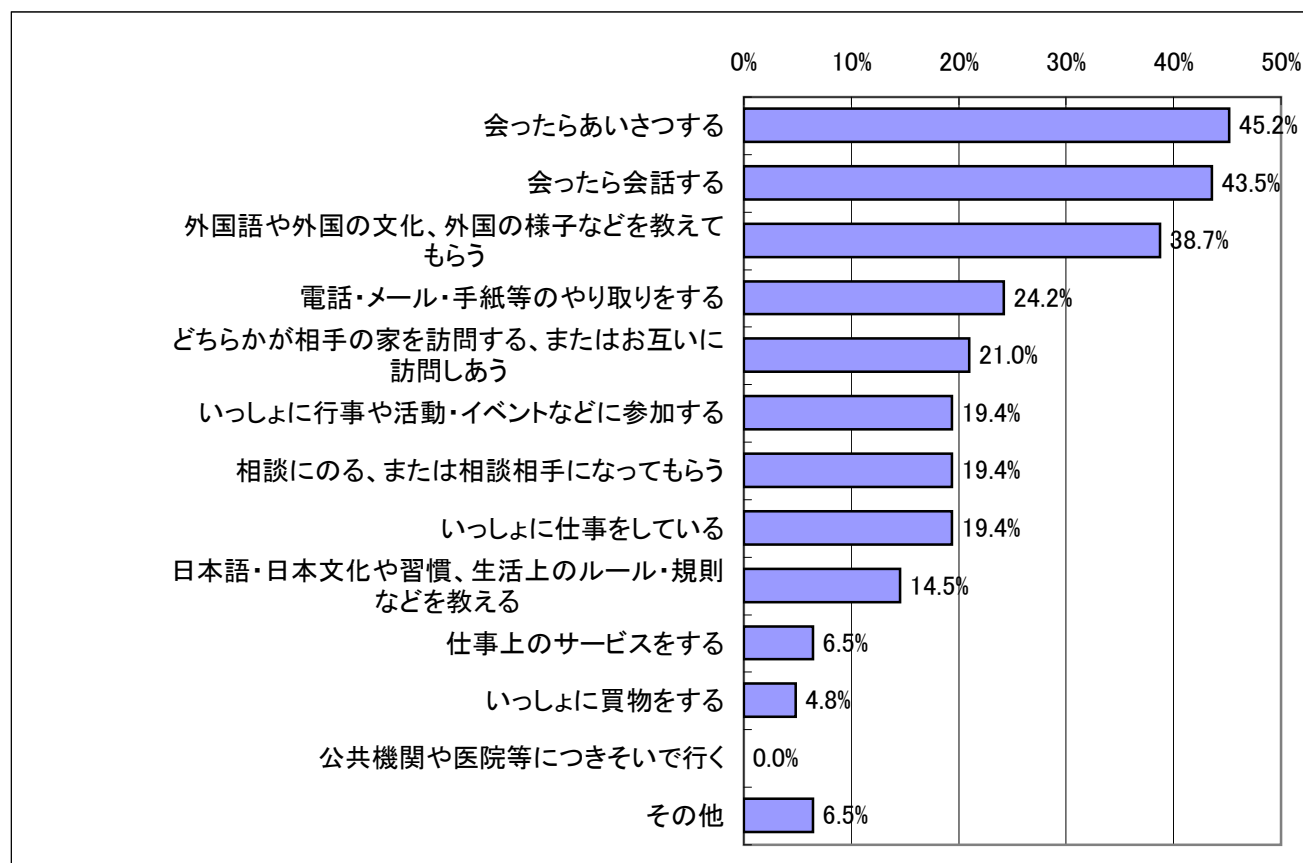


問５．それはどのような交流ですか。（次の中から、あてはまる答えをいくつでも選んでください。）

※ 問２でア～ウを選択した５６名と問２でエを選択したが、問４でアを選択した１２名の計６８名に対して質問をお願いしているものです。

※ この割合は、６８名から無回答６名を除いた合計６２名で集計しています。

項目	合計	割合
ア 会ったらあいさつする	28件	45.2%
イ 会ったら会話する	27件	43.5%
ウ どちらかが相手の家を訪問する、またはお互いに訪問しあう	13件	21.0%
エ 電話・メール・手紙等のやり取りをする	15件	24.2%
オ いっしょに買物をする	3件	4.8%
カ 公共機関や医院等につきそいで行く	0件	0.0%
キ いっしょに行事や活動・イベントなどに参加する	12件	19.4%
ク 相談にのる、または相談相手になってもらう	12件	19.4%
ケ 外国語や外国の文化、外国の様子などを教えてもらう	24件	38.7%
コ 日本語・日本文化や習慣、生活上のルール・規則などを教える	9件	14.5%
サ いっしょに仕事をしている	12件	19.4%
シ 仕事上のサービスをする	4件	6.5%
ス その他（ ）	4件	6.5%
合計	163件	—



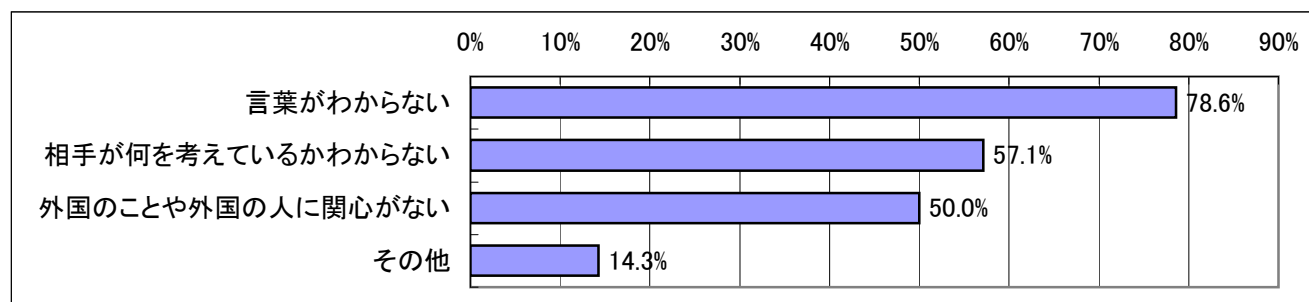
会ったらあいさつする等日常的交流が最も多く、約40%です。
 ・その他回答…一緒に食事をする。スポーツをする。食事をする。

問6. その理由としてあてはまる答えを、次の中から2つまで選んでください。

※ 問4でイ、ウを選択した合計20名に対して質問しているものです。

※ 割合は、20名から無回答の6名を引いた合計14名で集計しています。

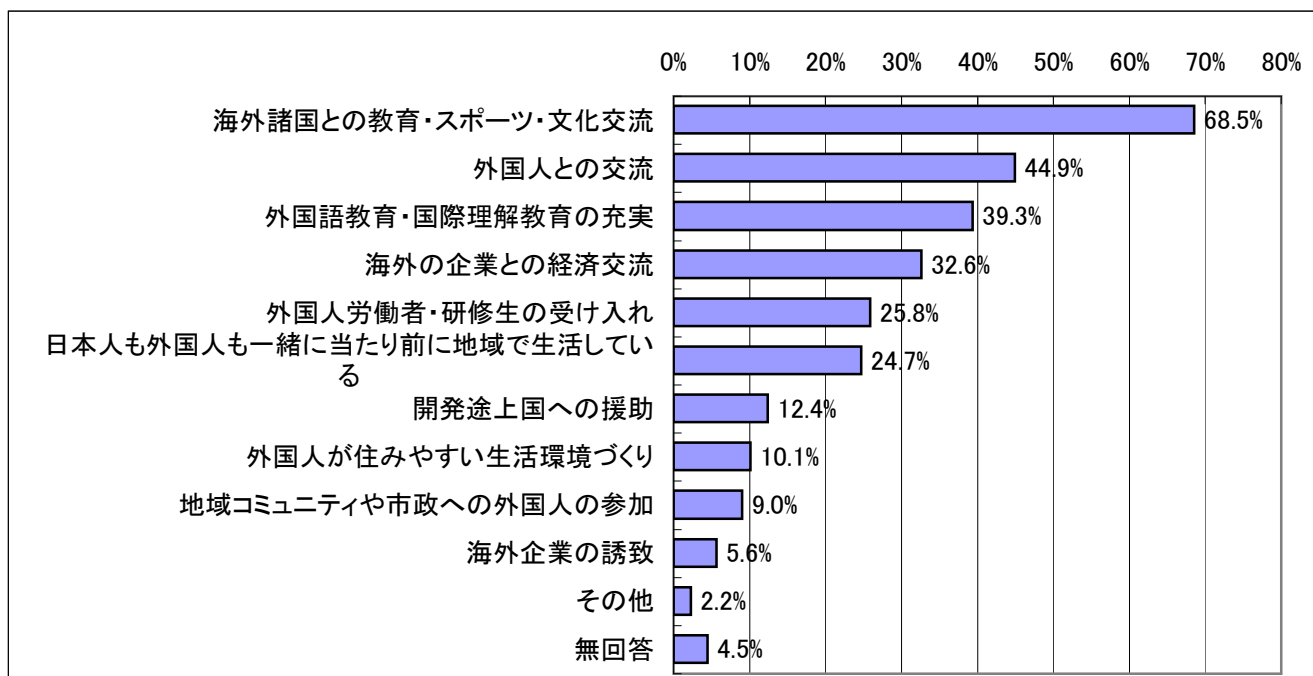
項目	合計	割合
ア 言葉がわからない	11件	78.6%
イ 相手が何を考えているかわからない	8件	57.1%
ウ 外国のことや外国の人に関心がない	7件	50.0%
エ その他	2件	14.3%
合計	28件	—



外国との交流にあたっては、言葉の壁があるとの回答が半数以上を占めました。
 ・その他回答…言葉のとり方、恐怖心がある、国際交流の必要性を感じない

問7. 国際化というとなどのようなことを思い浮かべますか。（次の中から、あてはまる答えを3つまで選んでください。）

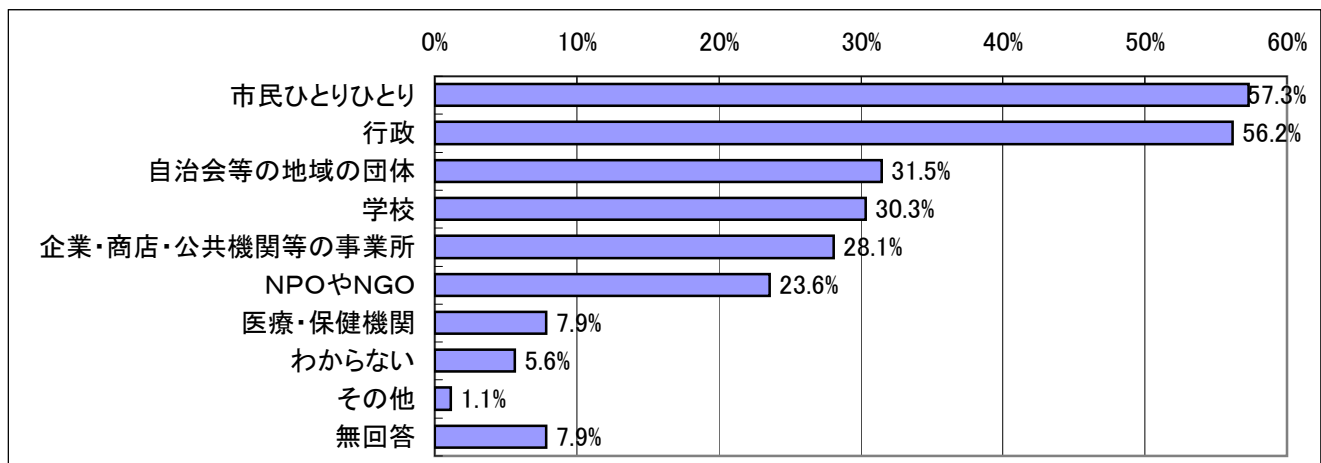
項目	合計	割合
ア 海外諸国との教育・スポーツ・文化交流	61件	68.5%
イ 外国語教育・国際理解教育の充実	35件	39.3%
ウ 開発途上国への援助	11件	12.4%
エ 海外の企業との経済交流	29件	32.6%
オ 海外企業の誘致	5件	5.6%
カ 外国人労働者・研修生の受け入れ	23件	25.8%
キ 外国人との交流	40件	44.9%
ク 外国人が住みやすい生活環境づくり	9件	10.1%
ケ 地域コミュニティや市政への外国人の参加	8件	9.0%
コ 日本人も外国人も一緒に当たり前に地域で生活している	22件	24.7%
サ その他	2件	2.2%
シ 無回答	4件	4.5%
合計	245件	—



海外諸国との教育・スポーツ・文化交流が約7割という多数を占めました。
 ・その他回答…日本文化、歴史を外国人に説明できるように勉強する環境を作ること。

問8. これからの国際化を進めるのは誰だと思いますか。（次の中から、あてはまる答えをいくつでも選んでください。）

項目	合計	割合
ア 市民ひとりひとり	51件	57.3%
イ 自治会等の地域の団体	28件	31.5%
ウ 学校	27件	30.3%
エ 企業・商店・公共機関等の事業所	25件	28.1%
オ 医療・保健機関	7件	7.9%
カ NPOやNGO	21件	23.6%
キ 行政	50件	56.2%
ク わからない	5件	5.6%
ケ その他	1件	1.1%
コ 無回答	7件	7.9%
合計	222件	—

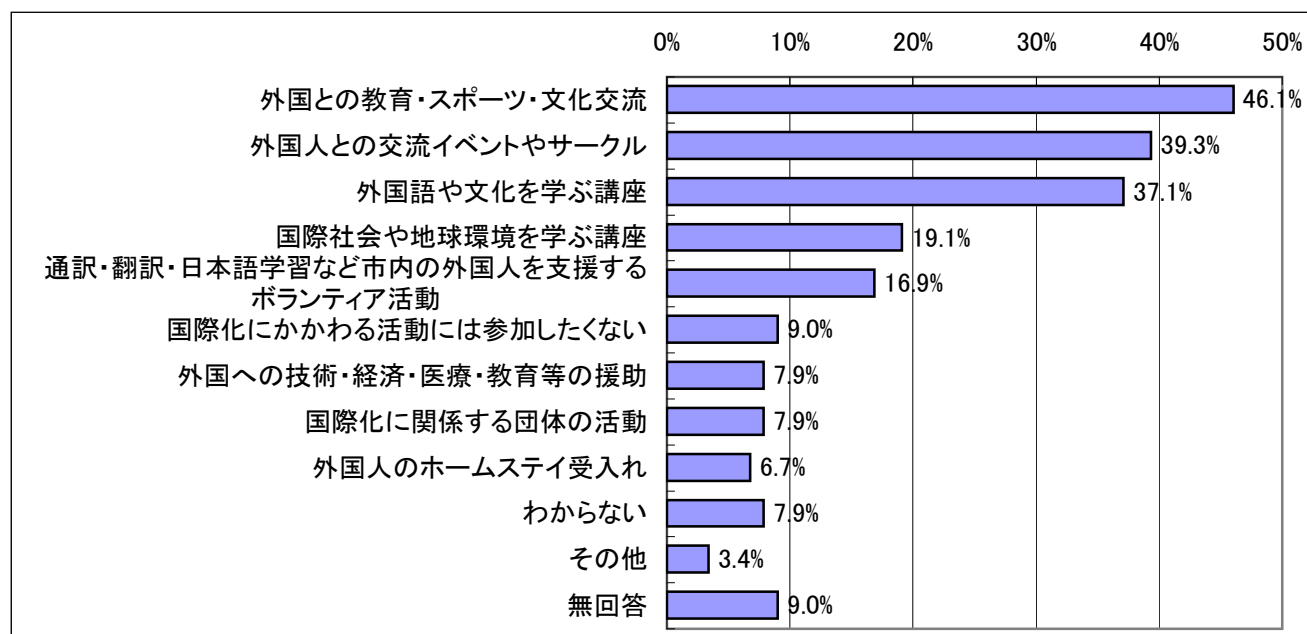


市民ひとりひとりが国際化に向け、努力すべきであるとの意見が半数以上を占めました。

・その他回答…家庭

問9. あなたが今後、朝霞市の国際化にかかわる活動をするとしたら、どのような活動に参加してみたいと思いますか。（次の中から、あてはまる答えを3つまで選んでください。）

項目	合計	割合
ア 外国との教育・スポーツ・文化交流	41件	46.1%
イ 外国への技術・経済・医療・教育等の援助	7件	7.9%
ウ 外国人との交流イベントやサークル	35件	39.3%
エ 外国語や文化を学ぶ講座	33件	37.1%
オ 国際社会や地球環境を学ぶ講座	17件	19.1%
カ 国際化に関係する団体の活動	7件	7.9%
キ 外国人のホームステイ受入れ	6件	6.7%
ク 通訳・翻訳・日本語学習など市内の外国人を支援するボランティア活動	15件	16.9%
ケ 国際化にかかわる活動には参加したくない	8件	9.0%
コ わからない	7件	7.9%
サ その他	3件	3.4%
シ 無回答	8件	9.0%
合計	187件	—

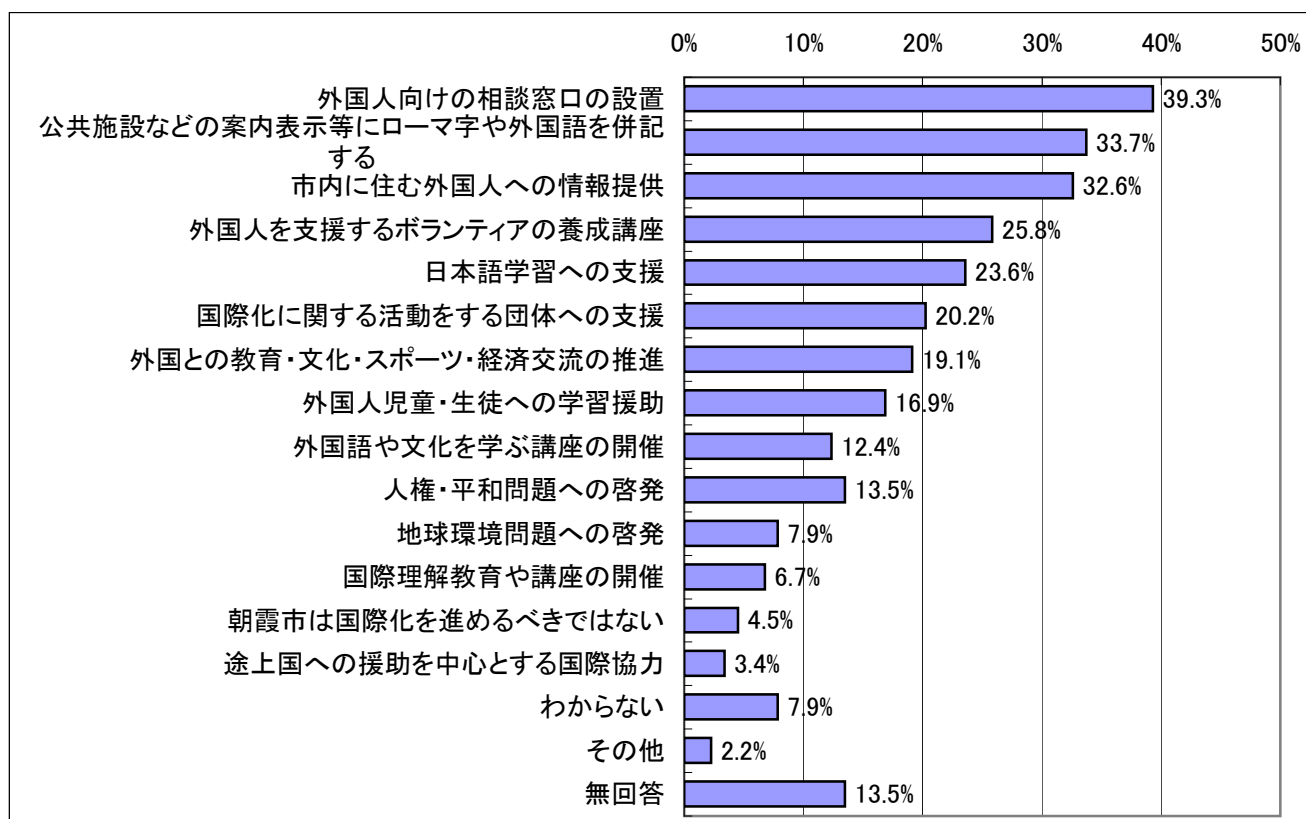


外国との教育・スポーツ・文化交流が最も多く、4割強です。

- ・その他回答…特別な活動ではなく、当たり前に関わりたい、日本について外国人と話す機会を作る日本語や日本のことを教える、日本外国に促われず、世界規模で

問10. 国際化を進めるには朝霞市は何をすべきだと思いますか。（次の中から、あてはまる答えを3つまで選んでください。）

項目	合計	割合
ア 市内に住む外国人への情報提供	29件	32.6%
イ 公共施設などの案内表示等にローマ字や外国語を併記する	30件	33.7%
ウ 外国人を支援するボランティアの養成講座	23件	25.8%
エ 国際化に関する活動をする団体への支援	18件	20.2%
オ 日本語学習への支援	21件	23.6%
カ 外国人向けの相談窓口の設置	35件	39.3%
キ 外国人児童・生徒への学習援助	15件	16.9%
ク 国際理解教育や講座の開催	6件	6.7%
ケ 外国語や文化を学ぶ講座の開催	11件	12.4%
コ 地球環境問題への啓発	7件	7.9%
サ 人権・平和問題への啓発	12件	13.5%
シ 外国との教育・文化・スポーツ・経済交流の推進	17件	19.1%
ス 途上国への援助を中心とする国際協力	3件	3.4%
セ 朝霞市は国際化を進めるべきではない	4件	4.5%
ソ わからない	7件	7.9%
タ その他	2件	2.2%
チ 無回答	12件	13.5%
合計	252件	—



外国人向け相談窓口の設置希望が最も多く、約4割です。

・その他回答…日本、県、地元についてより深く学び、知らない人（外国人を含む）に説明する。

問 1 1. あなたやあなたの身近な人が外国人と交流をした体験の中で、よかったことや難しかったことがありましたら、ご記入をお願いいたします。

【20歳代】

- ・インドから来た方々に合う食事が見つからなかった。教会が見つからなかった。(男性)
- ・学校や病院など言葉の壁。(女性)
- ・海外の情報を入手できる。日本人との考え方の違いの比較ができる。(女性)
- ・私は小学生の時、毎月のペースで外国の人を招き、国際交流をしていました。学校の近くには大学があり大学に留学している外国人の方もいたので自然と話す機会がありました。(女性)
- ・言葉のキャッチボールができない。(男性)
- ・他の国の人と交流することで、自国の良さや欠点を発見できるが、本当の意味で相互理解をするには、やはり短時間、短期間では難しいので、継続していくことが大切だと思う。(女性)
- ・彼女が外国人に声をかけられ、困った思いをしました。(男性)
- ・自分の言いたいことが、うまく相手に伝わらない。(女性)
- ・見かけで判断していたが、話せば同じ人間で彼らは彼らなりに頑張っている。知らない国を知ろうとする気持ちがあり、日本人以上に努力をしていると思う。外国人が住みやすくなるよう協力をしてほしいと思う。(男性)
- ・異国の文化、味を体感できた。(男性)

【30歳代】

- ・言葉が通じない事は大変だけど気持ちの問題。(女性)
- ・飲食店に勤務しています。顧客として外国人の方と話をする機会が以前よくあったのですが、単純に自分の知らない国のことなど知るチャンスという意味では良かったと思います。自分の視野が広がったと思います。日本人の悪いところや他国から学んだ方がよいこととか、そのようなレベルですが・・・。(女性)
- ・文化の違いを知ることができた。(女性)
- ・言葉を使っただけのコミュニケーションが難しかった。(女性)
- ・子育ての考え方の大きな違いを感じた。(女性)
- ・国によっては、日本でいわれる過保護なところがあるので共感するのが難しかった。(女性)
- ・ボランティア(外国語の先生、仕事の世話など)がいらない。(男性)
- ・英会話の能力が乏しいために挨拶程度になってしまう。道を聞かれても、英語で答えられないなど困りました。(女性)
- ・「日本の男性はどうしてこんなに夜遅くまで働いて、家に帰って一緒にご飯を食べないのか」と客観的に言われた時、自分の家庭をかえりみる良い機会になりました。(女性)
- ・その国の言葉で挨拶をしたら、笑顔が見られた。(女性)

【40歳代】

- ・日本人より、真面目に仕事に取り組む人に出会い、はっとさせられた。(女性)
- ・言葉の壁、文化の違いで、理解し合えない(言葉でうまく説明できなかった)など。朝霞はなぜ「あさか」という地名になったか、ちゃんと説明できなかった。(女性)
- ・文化の違いと食生活の違いで良かったこともあり苦労したこともあります。(女性)
- ・主人は日本に来て20年近くになりますが、一度も年金の通知が来たことが無かった。今年やっと厚生年金に入りました。税金は所得税・住民税と日本人と同じに払っているのに保障や選挙権もないなら、同じ税金をとるなど言いたい。何の保障や権利の無いまま老後を迎えて良いのか心配です。知り合いは、近所に友人も無く、家に引きこもりがちです。(女性)
- ・小さい子供がいる人などに、情報の提供を細かくした方がよいのでは。(女性)
- ・文化や習慣の違いなどにふれることができて刺激になった。(女性)

- ・外国の文化、特に子育てや家族の介護など、日本では考え方が目立ち、不安や辛さ等が重荷になりがちですが、普通に生活の一部として受け入れている暮らしを見るにあたり、これが日本に足りないところだと思い、とても感心しました。(男性)
- ・外国の宗教の中には、他の宗教を受け入れない国もあり、お互いの文化理解に支障となることが多く、辛い思いをした事があります。(男性)
- ・その国と日本の問題にふれた時に攻撃的な発言を受ける、そういう時はやはり近づきたくないし、会話もさけてしまう。(女性)
- ・生活習慣や文化の違いに戸惑う。間に入った人は苦労すると思います。(女性)

【50歳代】

- ・職場には多数の中国人の学生が働いています。会話は日本語を話し、へたながらも勉強し、一生懸命表現しています。会話することにより文化の違いがわかり、仕事で助けあうことによりお互いの意思の疎通がはかれています。(男性)
- ・国民性・習慣・文化の違いにより、苦労することもあります。新聞や雑誌テレビによる報道だけで相手を判断することなく、理解できることが良かったと思います。(男性)
- ・以前海外で仕事をした際、現地で一緒に働いた若いスタッフが、その後いくつかの会社を経て日本に出張で来るのが決まり、わざわざこちらへ連絡をし、時間を割いてくれた。人間関係が希薄になったといわれる昨今、むしろ外国の人の方が義理や恩みみたいなものを大事にしているのではと思った。(男性)
- ・異文化を教えてもらったが、宗教の差を感じた。(女性)
- ・意見をはっきり言えるので、お互いに気持ち良かったと思う。日本人のうやむやが通じないので、外国人と接することは、国際的な感覚をやしなうのに良いと思う。違和感を感じなかったのも、同じ人間として接することができたのが良かった。多くの人にそう感じてほしい。(女性)
- ・外国人と一緒に暮らしたことがあります。長く一緒に生活していると、言葉・顔つき等全く違っていても基本的には同じ人間、通じ合う所も多く、何も私たちと変わる所はないと学びました。分かり合えるまで話すことも、これは外国人の方に限ったことではありませんが、大切と思いました。例)生活習慣等の違いでトラブルも最初はたくさんありました。しかし、まったく違った生活観、価値観等にふれるという事は、とても良いことだと思います。(女性)

【60歳代】

- ・日本語の言葉のとり方で誤解が多かった。悪い方にとられてみたり、説明の仕方がわからない。(女性)
- ・外国人の方々は、日本の伝統文化にたいへん興味をお持ちです。例えば、着物・お茶・お花・柔道・剣道などです。でも私たち日本人はそれらをあまり大切に思っていないし、またよく知らない人もたくさんいらっしゃいます。日本人なのに民族衣装である着物が一人できられないなんていうのも良い例ではないでしょうか。外国人との交流体験の中で、私は、日本人はもっと日本の伝統文化を大切にするべきだと気付かされました。(女性)
- ・他の国の文化を知り日本の文化を教えた。(男性)
- ・会話するのが難しかった。義務教育終了時に日常的な英会話のマスターが必要。(男性)
- ・ホームステイで外国の方を受け入れた時に、暖かいまなざしと受け答えをしていたおばあちゃんが一番相手と意思の疎通ができていたのにはびっくりしました。
その後、スキューバダイビングを趣味とし、資格をとり海外に行くことがあります。行った先では現地の人との会話を一番大切にしています。同じところを何回か訪問しているうちに、現地の人と家族ぐるみで親しむようになりました。
貧しい国を訪れた時に現地の人に親切にもらったのがきっかけで、その国へボランティアに行って、算数の教科書をつくりました。後になって、その地域の人が我が家を訪ねてくれたので、公民館で茶会を開き、浴衣を着せてあげました。小さくてもよいから朝霞市で活動のきっかけを立ち上げてみてはどうですか。きっと待っている人がいると思います。(女性)
- ・育った環境による考え方の違いを知ることができる。(男性)
- ・異文化を知る。世界が身近に感じられた。習慣の違い。(男性)

- ・海外旅行は大好きですが、それぞれの国はまず自分たちの国を大切にしています。日本は国民のことを考えず外国にばかり援助をしています。NPO、NGO等をやる前にもっと日本国内に目を向けてほしいと思う。(女性)

【70歳代】

- ・在職中雇用も担当し、有資格者（免許等）は国を問わず同一賃金としたことは、今でも間違っていなかったと信じている。感謝もされちょっとくすぐったい感じ。(男性)
- ・言葉がわかればそれ程外国人という感覚はなく、同じ人間として接していけます。現在は、外国人、日本人という違いはなく、素直な気持ちで受け入れられる世の中だとも思います。(女性)

問12. 朝霞市の国際化に関して思っていることや考えていることがありましたら、ご記入をお願いいたします。

【20歳代】

- ・住みやすい様に英字表記を増やす。(女性)
- ・企業とタイアップし、外国人駐在者やその家族を受け入れる体制を構築するべき。また、姉妹都市協定を結ぶなどして、積極的に海外と交流を深めるべき。(男性)
- ・日本と海外との格差が少しでもなくなれば良いのではないかと思います。(女性)
- ・「郷に入りては郷に従え」という諺のような考え方も大切だが、こちらのやり方・習慣を押しつけるのではなく、まず相手の話を聞いてあげることが大切だと思う。(女性)
- ・国際化は賛成です。しかし、朝霞の良い所（東京には無いところ）を残してほしい。(男性)
- ・外国人一人あたりの徴収税額が、日本人一人あたりの税額を下回るようであれば税金の無駄。(男性)
- ・外国人専用の相談窓口を用意してほしい。具体的には、仕事の事、子育ての事、困ったこと等。(女性)
- ・外国人と日本人の交流会を催してほしい。(女性)

【30歳代】

- ・正直言って「生活」というものに外国の方が入り込んでくるのは、ちょっと怖いと思います。例えば文化交流というようなことでしたら、大歓迎なのですが・・・(外国語を学ぶとか、外国の料理を学ぶだとか、そういう自分の視野を広げるようなこと)。偏見だと思いますが、例えば隣に外国の方が住んでいたらちょっと恐いかなと思います。文化の違いや、生活に対する考え方の違いとか、そういうものがネックになることもあるかなと思います。もちろん、いい人がたくさんいることも知っているのですが。(女性)
- ・市内に外国の方が増えていることが、このアンケートの前提として書かれていますが、どういう国・地域の方がどれくらい、市内にいるのかも明示してほしい。欧米対象かそれ以外が対象かで、回答に差が出ると思う。(女性)
- ・特別にイベントを行ったり、国際センター（交流館）を作ったりせず、外国の方とごく普通に接すればいいと思う。(女性)

【40歳代】

- ・最近では、外国からホームステイなどを受け入れたり、海外に子供たちが行ったりしている様だが、それも一部のことで知らないことも多いのでは。日本（朝霞での）受入れ先が少ない？一度受け入れてもあまりの大変さに、次は？となるのでは？(女性)
- ・外国人が生活するには、地域の理解と支援が必要。地域で生活するためには、行政だけのサポートでは対処できないのでは。(男性)
- ・支援団体やボランティア、更には不動産屋など業界の関係者に協力を求める支援の輪が必要ではないでしょうか。(男性)
- ・市役所や病院、公共機関等の受付などに外国語の出来る職員の起用を推進してほしい。(男性)

- ・志木まつりの屋台のように在住の外国人の協力をもらい、まつりで諸外国の料理屋台を出す。難しいことをやるよりも衣食住・・・食を知ること、交流できるケースも少なくない。(女性)
- ・国別でイベントをするとよい(ゆめばれすなどで)。自国語の寸劇、音楽、ダンスのあと、料理や手工芸他、展示などもする。(女性)
- ・朝霞市のみではなく近隣市町村と連携した取り組みをしないと企画倒れに終わるのでは？掛け声だけでは何も変わらないし、市民一人ひとりの思考をその方向に持っていくような啓発が必要だと思う。(男性)
- ・外国の方が日本に住む以上日本の習慣やマナーを尊重するべきだと思うし、日本もある程度寛容にしていかなければ無理だと思う。(女性)
- ・相手が日本に対して被害者意識が強い国だと交流は疲れるし、難しいです。(女性)
- ・海外都市との姉妹都市締結を行い、市民にアピールする。(男性)
- ・なぜ今国際化の話が出てきたのかわかりません。外国人の方がごく少数である場合と、市民の人口のうち数十パーセントを超えてしまったような場合ではとるべき道も変わってくると思います。(女性)

【50歳代】

- ・国際化を提案することは非常に難しいことですが、あえて申し上げるとすると、彼らを単なる労働力や留学生という一時的な寄留者としてではなく、住民として認識することから始めなければと考えました。(男性)
- ・住んで6年目なのですが、平日仕事で朝霞市にいないので、よくわかりません。(女性)
- ・「国際化」の定義も「国際化を進める」という主旨も、まったく理解できません。いったい何がしたいのですか？今後市民に分かるように説明してください。税金の無駄使いに終わらないことを希望します。(女性)

【60歳代】

- ・外国人に日本文化を紹介する施設があってもよいのではないのでしょうか。例えば日本庭園や茶室、能楽堂などです。越谷市の花田苑のような施設が、朝霞市にもあったら良いと思います。(女性)
- ・多くの外国人を受け入れるサークルを増やしてほしい。(男性)
- ・朝霞市の国際化についてどのようなアピールをしているのか分かりません。(男性)

【70歳代】

- ・都市部での生活は、特に集合住宅等での近隣とのふれあいは無きに等しい。プライバシー等の問題等いろいろあろうが、要は融和と協調。趣味等を通じての、囲碁将棋、短歌俳句等集まりにも参加しているが、接した方は、ごくわずか、どうも中国・韓国の方々を除いては、縁が薄いらしい。(男性)
- ・朝霞市がなぜ積極的に国際化を推進しなければならないのかその理由・必然性及びその結果として市民に対するメリットが理解できない。朝霞市程度の地方自治体であれば、在住外国人が市民に早く融合できるように支援することで必要かつ十分であると思う。融合すること自体、制度の問題ではない。在住外国人自身の意識が高く、積極的であれば、自然に市民の交流が発生する。(男性)
- ・外国人が日本に来て悪いことをする人が多くなって来たような気がします。だからといって外国人が全部悪い人ばかりとは思いますが、共生ということをお互い考えていく時代が来ているのではないのでしょうか？(女性)

※ この他にも沢山の回答をいただきましたが、内容が似たものについては勝手ながら省略させていただきましたので、ご了承ください。

朝霞市国際化基本指針策定に伴う市民意識調査

(外国人市民対象)の概要

1 調査の目的・設問の趣旨

朝霞市国際化基本指針策定の資料とするため、外国人市民の朝霞市に対する意識や要望、市の制度やサービスの認知度、情報入手手段等についての項目を設定しました。

2 調査期間

平成20年 9月19日(金) 調査開始
10月15日(水) 回答締切り

3 調査方法

回答用紙 : A3裏表1枚に質問と回答欄を併記
翻訳した言語 : 英語・中国語・韓国語・ポルトガル語
調査項目数 : 15項目
回答方法 : 選択方式(14項目)及び記述方式(1項目)
調査対象 : ①総合窓口課のため来課した外国人
②子育て支援課窓口に来課した外国人
③委員から依頼していただいた外国人
④市内小中学校の外国人児童・生徒の保護者
⑤市内団体の外国人会員
⑥市内民間企業の外国人従業員

4 回答結果

配布数 : 268通
回答数 : 145通
回収率 : $145通 \div 268通 = 54.1\%$

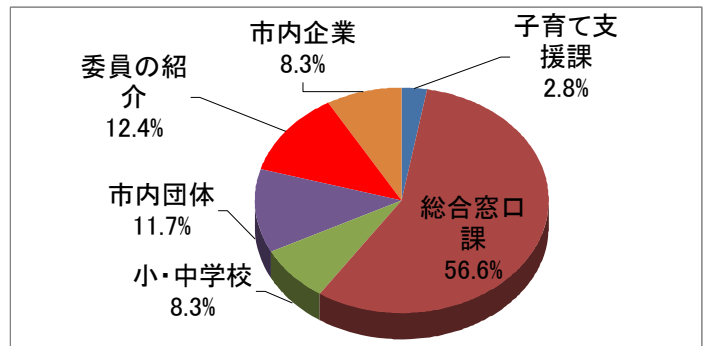
5 注意事項

パーセンテージの表示は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを記載しました。そのため、合計が100%にならないところがあります。

回答者のプロフィール

1 書類の受け取り場所

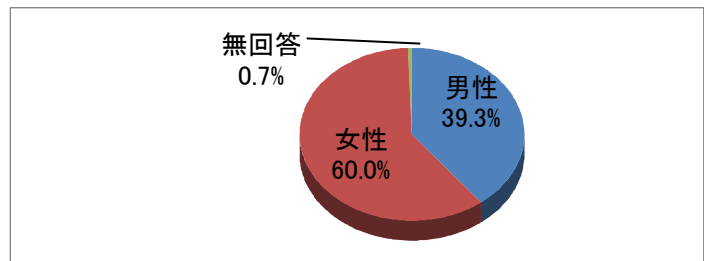
項目	合計	割合
子育て支援課	4人	2.8%
総合窓口課	82人	56.6%
小・中学校	12人	8.3%
市内団体	17人	11.7%
委員の紹介	18人	12.4%
市内企業	12人	8.3%
合計	145人	100.1%



書類は、市役所で受け取った方が約6割です。

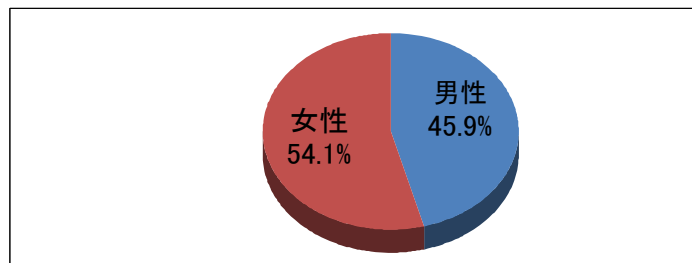
2 性別

項目	合計	割合
男性	57人	39.3%
女性	87人	60.0%
無回答	1人	0.7%
合計	145人	100.0%



(参考) 朝霞市の外国人登録者の性別
(平成20年10月1日現在)

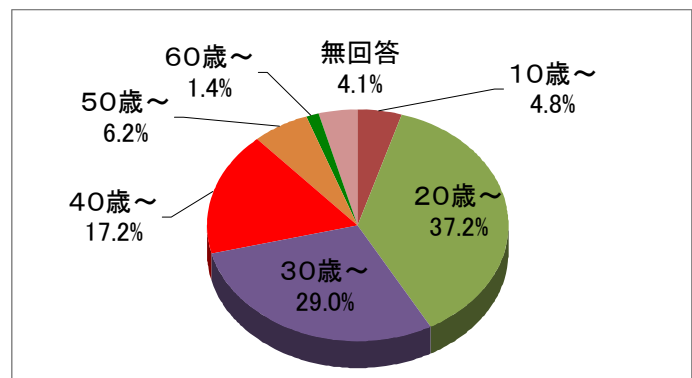
項目	合計	割合
男性	1,276人	45.9%
女性	1,501人	54.1%
合計	2,777人	100.0%



女性からのアンケートの回答が6割です。
アンケートの回答と実際の外国人の男女比とでは、実際のほうが、女性が若干多いものとなっています。

3 年齢

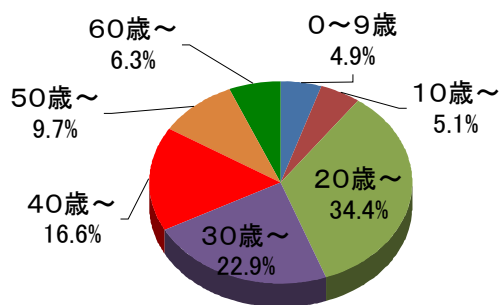
項目	合計	割合
0～9歳	0人	0.0%
10歳～	7人	4.8%
20歳～	54人	37.2%
30歳～	42人	29.0%
40歳～	25人	17.2%
50歳～	9人	6.2%
60歳～	2人	1.4%
無回答	6人	4.1%
合計	145人	99.9%



(参考) 朝霞市の外国人登録者数

平成20年10月1日現在

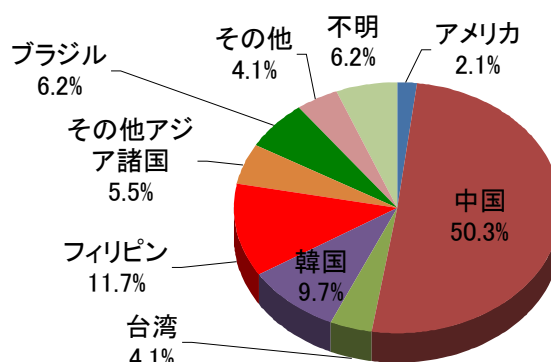
項目	男性	女性	合計	割合
0～9歳	82人	55人	137人	4.9%
10歳～	62人	79人	141人	5.1%
20歳～	436人	520人	956人	34.4%
30歳～	296人	339人	635人	22.9%
40歳～	195人	267人	462人	16.6%
50歳～	101人	169人	270人	9.7%
60歳～	104人	72人	176人	6.3%
合計	1,276人	1,501人	2,777人	99.9%



年齢比率は、朝霞市の人口比率とアンケートの回答比率は似たものとなっており、20歳から40歳代が約75%となります。

4 母国

項目	合計	割合
アメリカ	3件	2.1%
中国	73件	50.3%
台湾	6件	4.1%
韓国	14件	9.7%
フィリピン	17件	11.7%
その他アジア諸国	8件	5.5%
ブラジル	9件	6.2%
その他	6件	4.1%
不明	9件	6.2%
合計	145件	99.9%

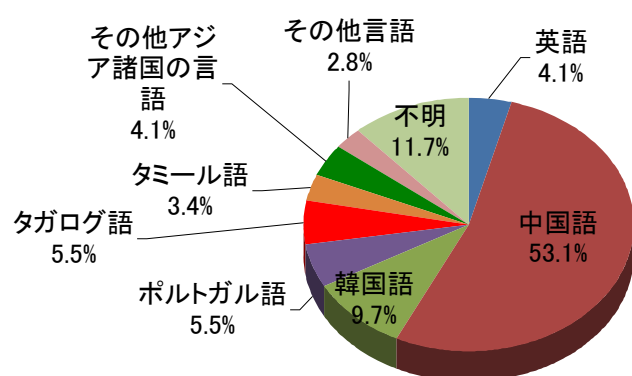


中国が母国である方が半数以上です。

5 母国語

※ アジア言語（中国語等）と英語が母国語と併記してあった場合は、アジア言語を優先しました。

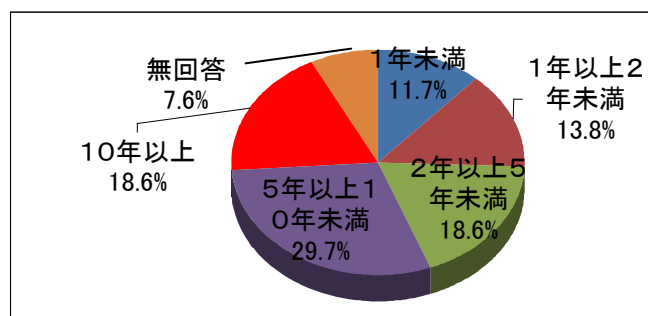
項目	合計	割合
英語	6人	4.1%
中国語	77人	53.1%
韓国語	14人	9.7%
ポルトガル語	8人	5.5%
タガログ語	8人	5.5%
タミール語	5人	3.4%
その他アジア諸	6人	4.1%
その他言語	4人	2.8%
不明	17人	11.7%
合計	145人	99.9%



中国語を母国語とする人が最も多く、約5割です。

6 在日年数

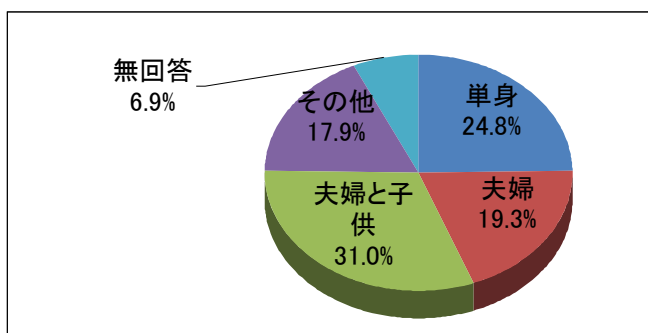
項目	合計	割合
1年未満	17人	11.7%
1年以上2年未満	20人	13.8%
2年以上5年未満	27人	18.6%
5年以上10年未満	43人	29.7%
10年以上	27人	18.6%
無回答	11人	7.6%
合計	145人	100.0%



在日年数は、5年以上10年未満が最も多く、約3割です。

7 家族構成

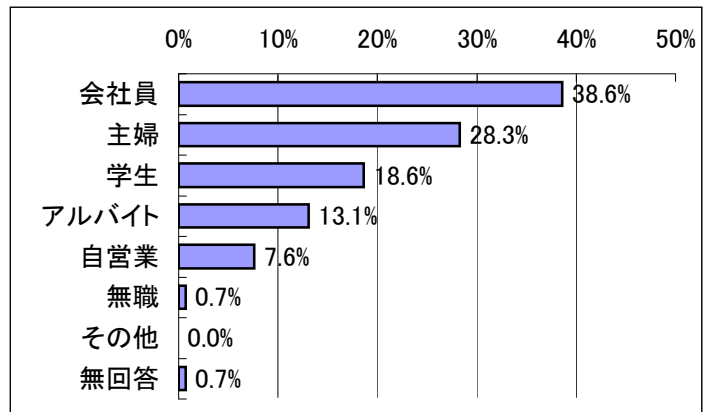
項目	合計	割合
単身	36人	24.8%
夫婦	28人	19.3%
夫婦と子供	45人	31.0%
その他	26人	17.9%
無回答	10人	6.9%
合計	145人	99.9%



家族構成は、単身から多人数世帯と様々です。

問1 職業（2つまで）

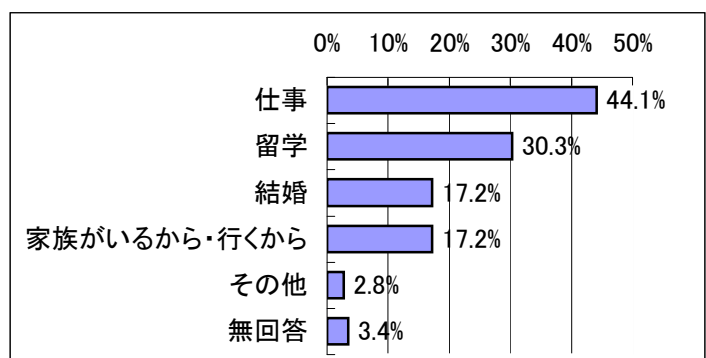
項目	合計	割合
会社員	56人	38.6%
自営業	11人	7.6%
アルバイト	19人	13.1%
主婦	41人	28.3%
学生	27人	18.6%
無職	1人	0.7%
その他	0人	0.0%
無回答	1人	0.7%
合計	156人	—



職業は会社員である方が最も多く、約4割です。

問2. 来日の目的（2つまで）

項目	合計	割合
仕事	64件	44.1%
留学	44件	30.3%
結婚	25件	17.2%
家族がいるから・行くか	25件	17.2%
その他	4件	2.8%
無回答	5件	3.4%
合計	167件	—

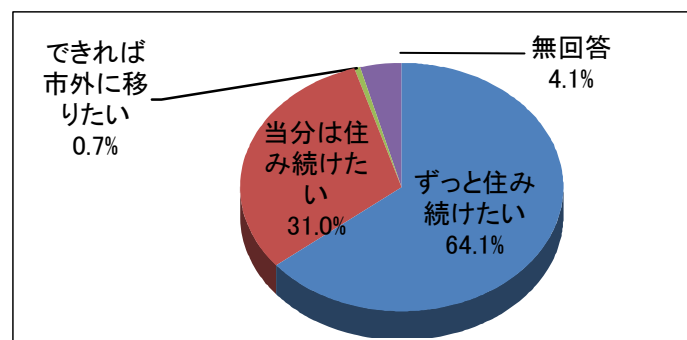


来日の目的は仕事と回答した方が最も多く4割強です。

・その他回答…私の母や家族と一緒に住むため。日本に住むため。

問3. 朝霞に住み続けたいか

項目	合計	割合
ずっと住み続けたい	93人	64.1%
当分は住み続けたい	45人	31.0%
できれば市外に移りたい	1人	0.7%
無回答	6人	4.1%
合計	145人	99.9%

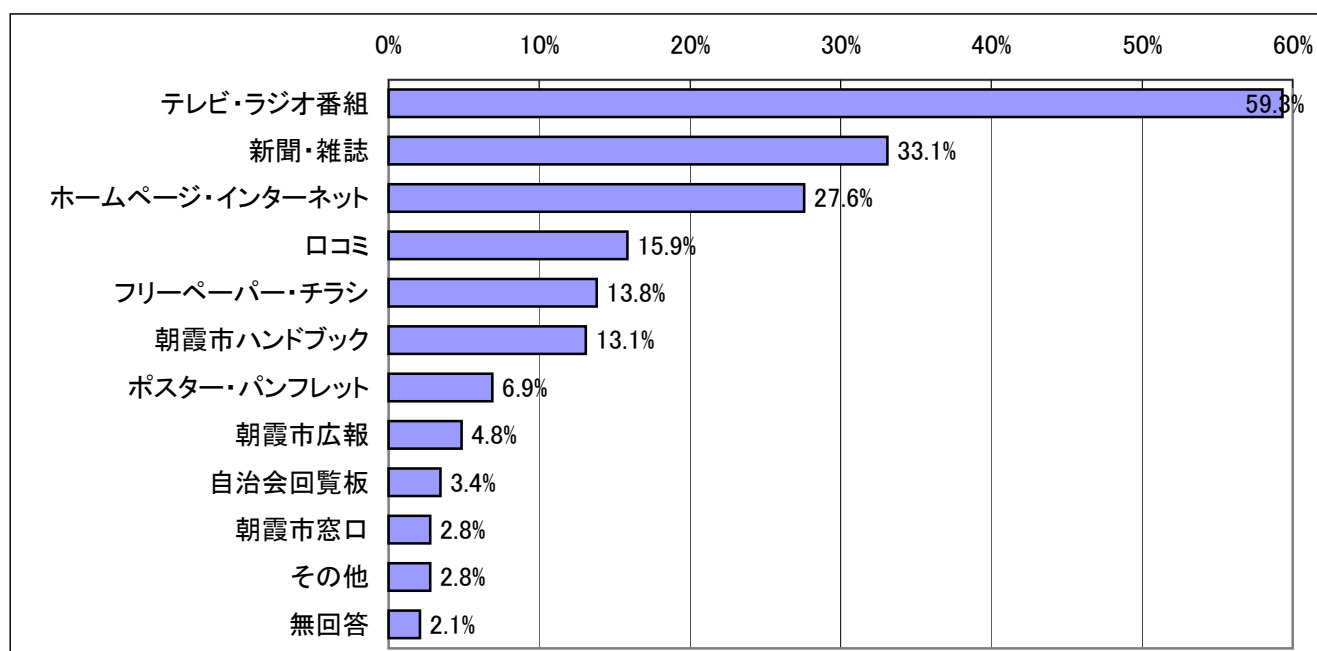


ずっと住み続けたいと当分は住み続けたいを合わせると9割強と朝霞市に定住志向が強いと思われます。

- ・ 住み続けたい理由
家を購入したため。街がきれいであり便利であるから。家賃が安い。東京から近い。保育園が近い。夫の職場が近い。日本人と結婚したから。親族が市内で働いている。娘が朝霞で学んでいるので、娘のお友達が大好きです。朝霞は非常に若い市である、この意味は多くの子供たちがいる。
- ・ 当分は住み続けたい理由
学校とバイト先の交通が便利。勤務先が近い。仕事の関係上。静かで市外に出るのが便利。1年間の留学で、期限が来たら帰国するため。
- ・ できれば住み続けたくない理由
もし、朝霞と他の所とが異なっているならば行ってみたい。

問４．情報入手先（複数回答あり）

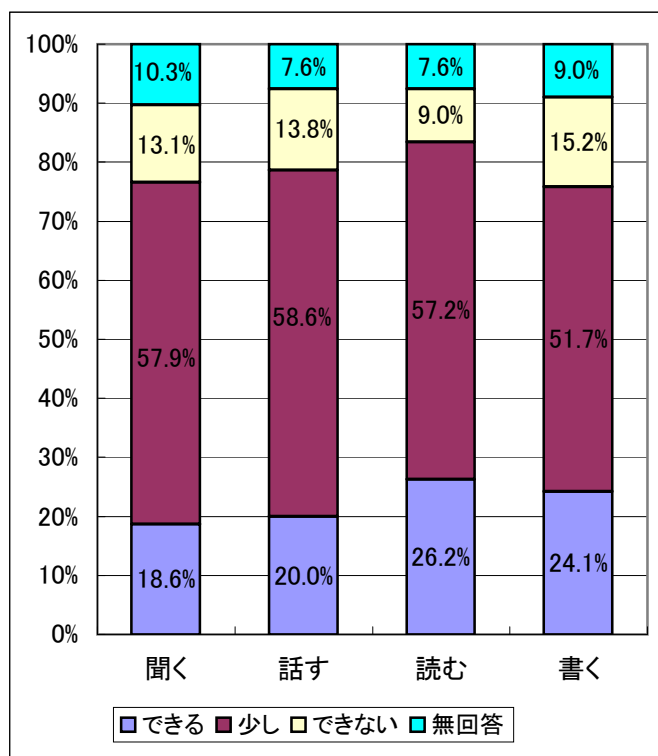
項目	合計	割合
テレビ・ラジオ番組	86件	59.3%
新聞・雑誌	48件	33.1%
フリーペーパー・チラシ	20件	13.8%
ポスター・パンフレット	10件	6.9%
朝霞市ハンドブック	19件	13.1%
朝霞市広報	7件	4.8%
自治会回覧板	5件	3.4%
ホームページ・インターネット	40件	27.6%
口コミ	23件	15.9%
朝霞市窓口	4件	2.8%
その他	4件	2.8%
無回答	3件	2.1%
合計	269件	—



テレビ・ラジオなどから情報を入手しているのが、最も多く約6割です。
 地域の情報の入手がテレビ・ラジオからでは難しいと思われることから、地域の情報を得るのに苦労していると思われます。
 公的なもの（朝霞市ハンドブック、広報等）としては情報入手先としては少ないが、外国語訳のある朝霞市ハンドブックは比較的利用が多い。
 ・その他回答…情報に詳しくない

問5. 英語のレベル

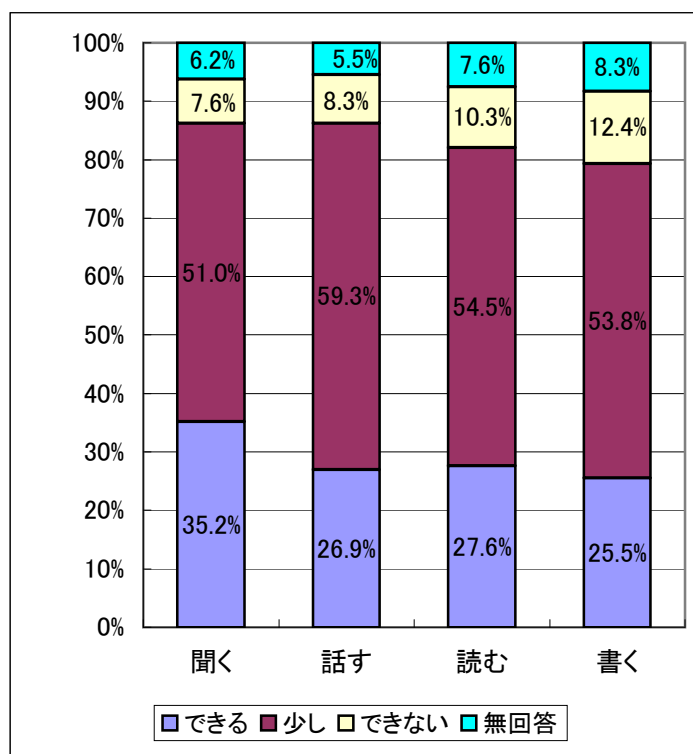
項目		合計	割合
聞く	できる	27人	18.6%
	少し	84人	57.9%
	できない	19人	13.1%
	無回答	15人	10.3%
	合計	145人	99.9%
話す	できる	29人	20.0%
	少し	85人	58.6%
	できない	20人	13.8%
	無回答	11人	7.6%
	合計	145人	100.0%
読む	できる	38人	26.2%
	少し	83人	57.2%
	できない	13人	9.0%
	無回答	11人	7.6%
	合計	145人	100.0%
書く	できる	35人	24.1%
	少し	75人	51.7%
	できない	22人	15.2%
	無回答	13人	9.0%
	合計	145人	100.0%



英語は、聞く、話す、読む、書くことができる方が7割以上います。

問6. 日本語のレベル

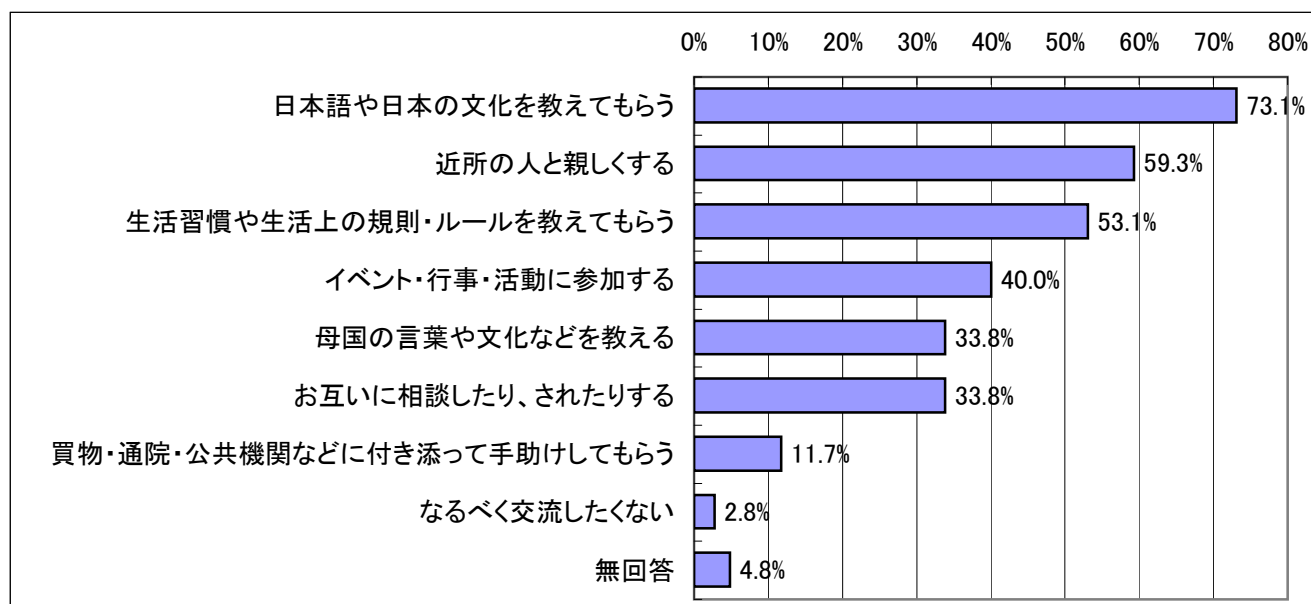
項目		合計	割合
聞く	できる	51人	35.2%
	少し	74人	51.0%
	できない	11人	7.6%
	無回答	9人	6.2%
	合計	145人	100.0%
話す	できる	39人	26.9%
	少し	86人	59.3%
	できない	12人	8.3%
	無回答	8人	5.5%
	合計	145人	100.0%
読む	できる	40人	27.6%
	少し	79人	54.5%
	できない	15人	10.3%
	無回答	11人	7.6%
	合計	145人	100.0%
書く	できる	37人	25.5%
	少し	78人	53.8%
	できない	18人	12.4%
	無回答	12人	8.3%
	合計	145人	100.0%



日本語は、来日していることもあり、聞く、話す、読む、書くことができる方が8割以上います。

問7. 日本人との交流で望んでいること（複数回答あり）

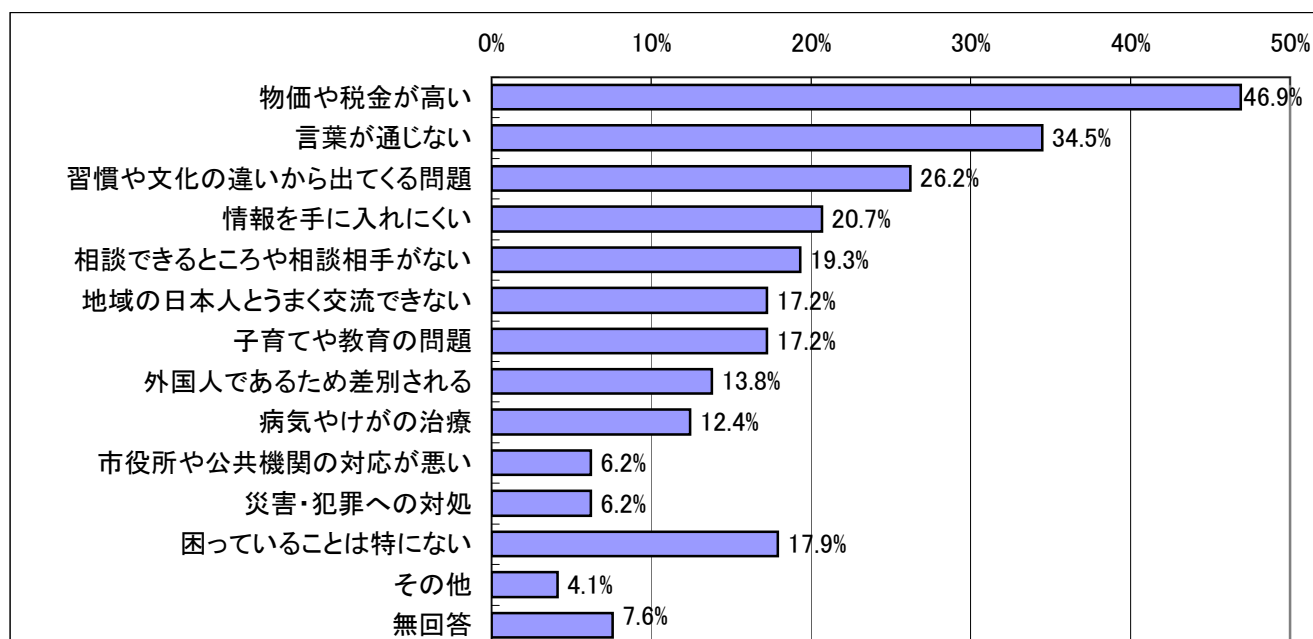
項目	合計	割合
近所の人と親しくする	86件	59.3%
イベント・行事・活動に参加する	58件	40.0%
日本語や日本の文化を教えてもらう	106件	73.1%
生活習慣や生活上の規則・ルールを教えてもらう	77件	53.1%
母国の言葉や文化などを教える	49件	33.8%
お互いに相談したり、されたりする	49件	33.8%
買物・通院・公共機関などに付き添って手助けしてもらう	17件	11.7%
なるべく交流したくない	4件	2.8%
無回答	7件	4.8%
合計	453件	—



日本語や日本の文化を教えてもらいたいと望んでいる方は7割以上います。
 ・交流したくない理由…一人暮らしなので、近隣と関わりを持ちたくない。

問 8. 生活の中で困ること（複数回答あり）

項目	合計	割合
言葉が通じない	50件	34.5%
情報を手に入れにくい	30件	20.7%
物価や税金が高い	68件	46.9%
習慣や文化の違いから出てくる問題	38件	26.2%
地域の日本人とうまく交流できない	25件	17.2%
相談できるところや相談相手がない	28件	19.3%
市役所や公共機関の対応が悪い	9件	6.2%
外国人であるため差別される	20件	13.8%
病気やけがの治療	18件	12.4%
災害・犯罪への対処	9件	6.2%
子育てや教育の問題	25件	17.2%
困っていることは特にない	26件	17.9%
その他	6件	4.1%
無回答	11件	7.6%
合計	363件	—

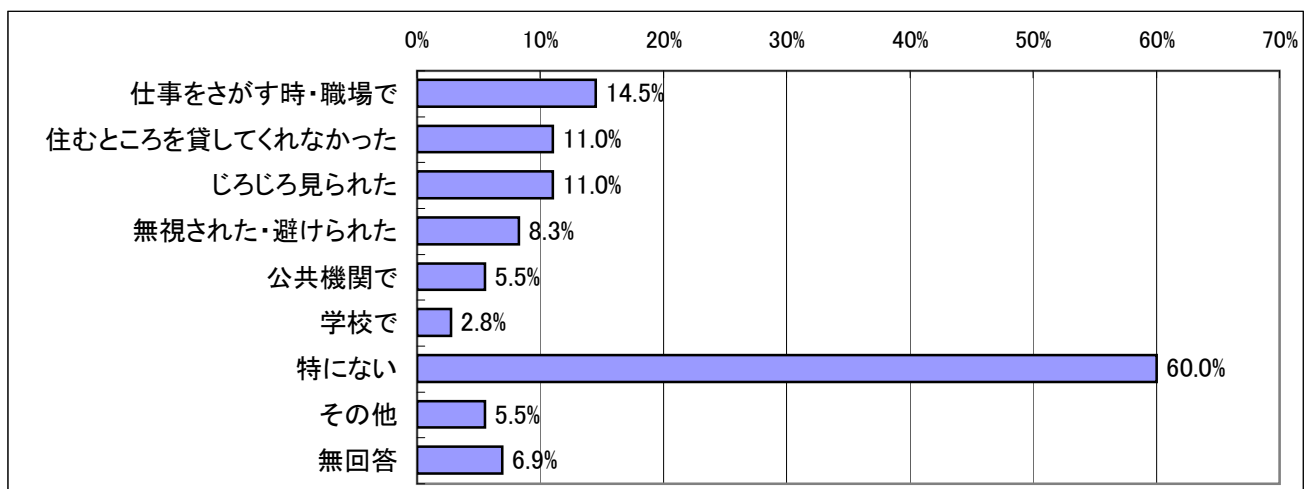


生活で困っていることは、物価が高いと回答した方が最も多く、4割強になります。

- ・その他回答…自治体によって租税システムが違う。病院の詳細（場所、休日等）。子どもの友達がいない。菜食主義者用のレストランがない。私の息子は日本の学校で勉強しているが、英語教科がない。

問9. 差別を感じたこと（複数回答あり）

項目	合計	割合
特になし	87件	60.0%
じろじろ見られた	16件	11.0%
無視された・避けられた	12件	8.3%
仕事をさがす時・職場で	21件	14.5%
公共機関で	8件	5.5%
学校で	4件	2.8%
住むところを貸してくれなかった	16件	11.0%
その他	8件	5.5%
無回答	10件	6.9%
合計	182件	—

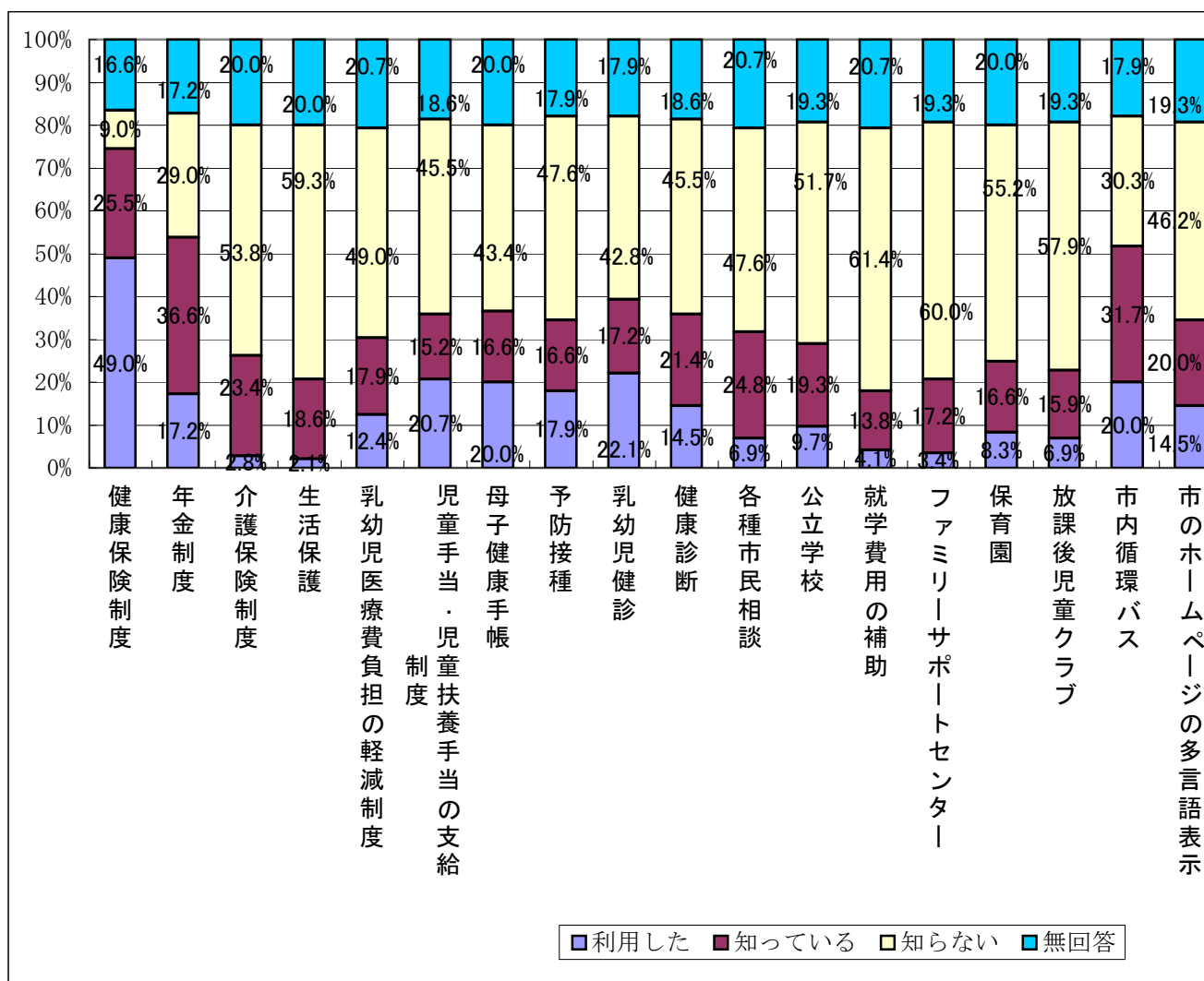


差別がないと回答したのが最も多く6割です。

・その他回答…買い物時。クレジットカードを申し込んだ時。

問10. 市の行政サービス

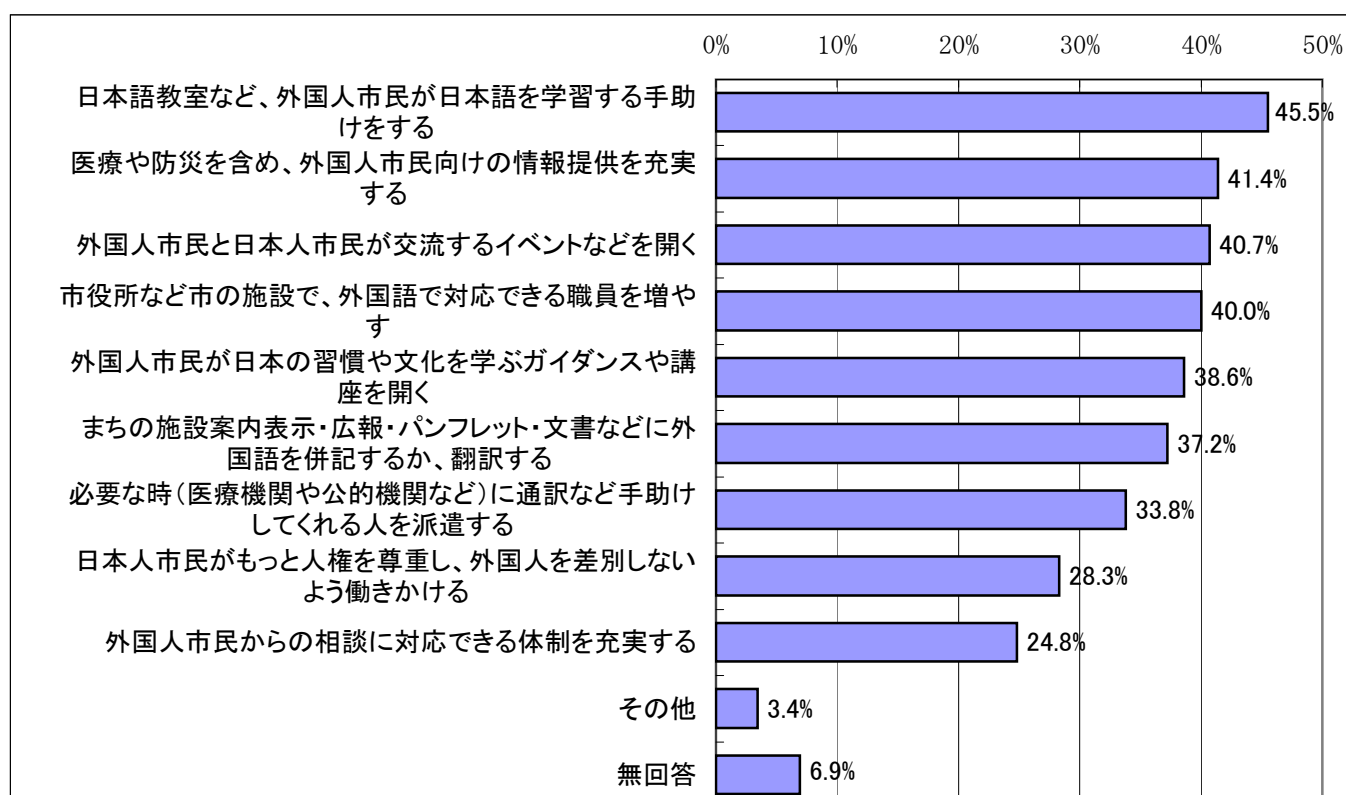
項目	利用した	知っている	知らない	無回答	合計
健康保険制度	71人	37人	13人	24人	145人
年金制度	25人	53人	42人	25人	145人
介護保険制度	4人	34人	78人	29人	145人
生活保護	3人	27人	86人	29人	145人
乳幼児医療費負担の軽減制度	18人	26人	71人	30人	145人
児童手当・児童扶養手当の支給制度	30人	22人	66人	27人	145人
母子健康手帳	29人	24人	63人	29人	145人
予防接種	26人	24人	69人	26人	145人
乳幼児健診	32人	25人	62人	26人	145人
健康診断	21人	31人	66人	27人	145人
各種市民相談	10人	36人	69人	30人	145人
公立学校	14人	28人	75人	28人	145人
就学費用の補助	6人	20人	89人	30人	145人
ファミリーサポートセンター	5人	25人	87人	28人	145人
保育園	12人	24人	80人	29人	145人
放課後児童クラブ	10人	23人	84人	28人	145人
市内循環バス	29人	46人	44人	26人	145人
市のホームページの多言語表示	21人	29人	67人	28人	145人
その他	0人	1人	1人	-	2人



健康保険制度が最も認知度が高く、7割強です。
全体的に市の行政サービスの認知度が低いと思われます。

問 1 1. 朝霞市が優先すべきこと（5つまで）

項目	合計	割合
まちの施設案内表示・広報・パンフレット・文書などに外国語を併記するか、翻訳する	54件	37.2%
医療や防災を含め、外国人市民向けの情報提供を充実する	60件	41.4%
市役所など市の施設で、外国語で対応できる職員を増やす	58件	40.0%
外国人市民からの相談に対応できる体制を充実する	36件	24.8%
必要な時（医療機関や公的機関など）に通訳など手助けしてくれる人を派遣する	49件	33.8%
日本語教室など、外国人市民が日本語を学習する手助けをする	66件	45.5%
外国人市民が日本の習慣や文化を学ぶガイダンスや講座を開く	56件	38.6%
日本人市民がもっと人権を尊重し、外国人を差別しないよう働きかける	41件	28.3%
外国人市民と日本人市民が交流するイベントなどを開く	59件	40.7%
その他	5件	3.4%
無回答	10件	6.9%
合計	494件	—



日本語教室など、外国人市民が日本語を学習する手助けをするなどが最も多く4割強です。

- ・その他回答…日本の様々な制度を簡単に説明する。就業面で差別をしない。
市役所の案内図に外国人登録の受付がなく、わかりにくい。
職場での外国人の人権尊重。

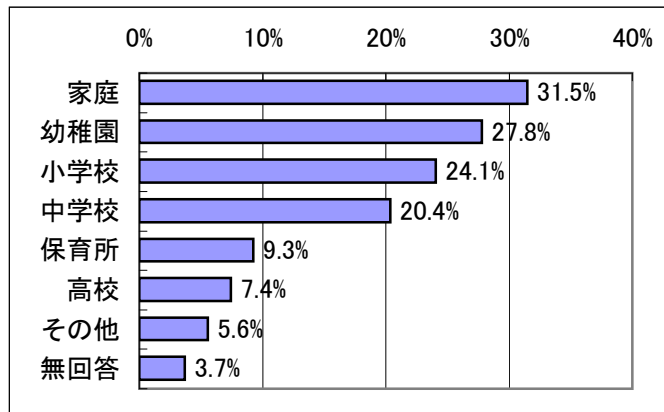
自由解答欄にも日本語学習への強い意欲を感じる回答が多くみられました。

問 1 2. 子どもの所属集団（複数回答あり）

※ 子どものいる家庭54名に対しての質問になります。

※ 外国では、保育園と幼稚園の区別がないところがあります。

項目	合計	割合
家庭	17件	31.5%
保育所	5件	9.3%
幼稚園	15件	27.8%
小学校	13件	24.1%
中学校	11件	20.4%
高校	4件	7.4%
その他	3件	5.6%
無回答	2件	3.7%
合計	70件	—



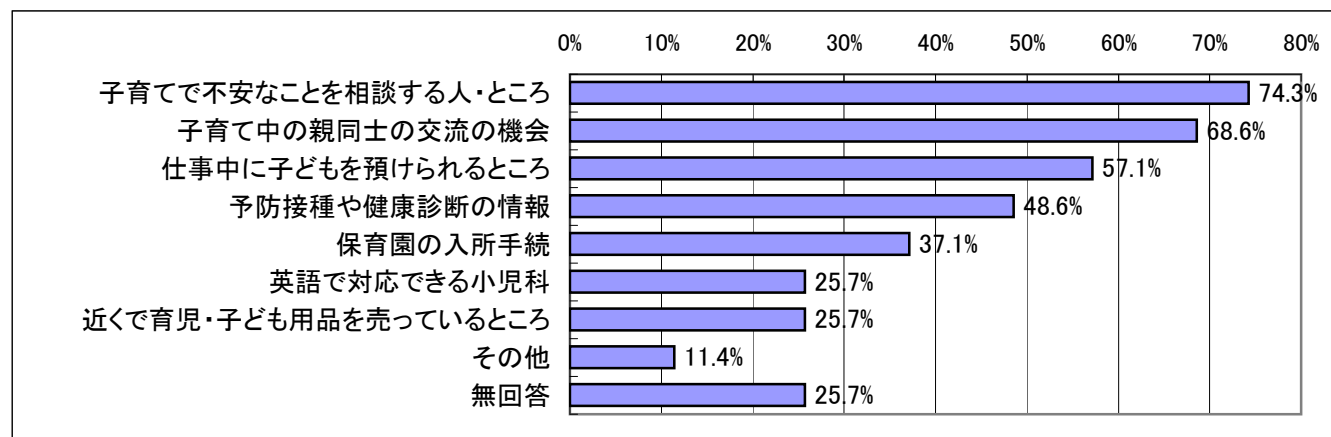
子どもが小学生以下の家庭が大多数です。

まだ幼稚園・保育園に通っていない小さい子どもがいる家庭が多い傾向です。

問 1 3. 子育てにおける情報の必要性（複数回答あり）

※ 小学生までの子どものいる家庭35名に対しての質問になります。

項目	合計	割合
子育てで不安なことを相談する人・ところ	26件	74.3%
子育て中の親同士の交流の機会	24件	68.6%
仕事の中に子どもを預けられるところ	20件	57.1%
保育園の入所手続	13件	37.1%
英語で対応できる小児科	9件	25.7%
予防接種や健康診断の情報	17件	48.6%
近くで育児・子ども用品を売っているところ	9件	25.7%
その他	4件	11.4%
無回答	9件	25.7%
合計	131件	—

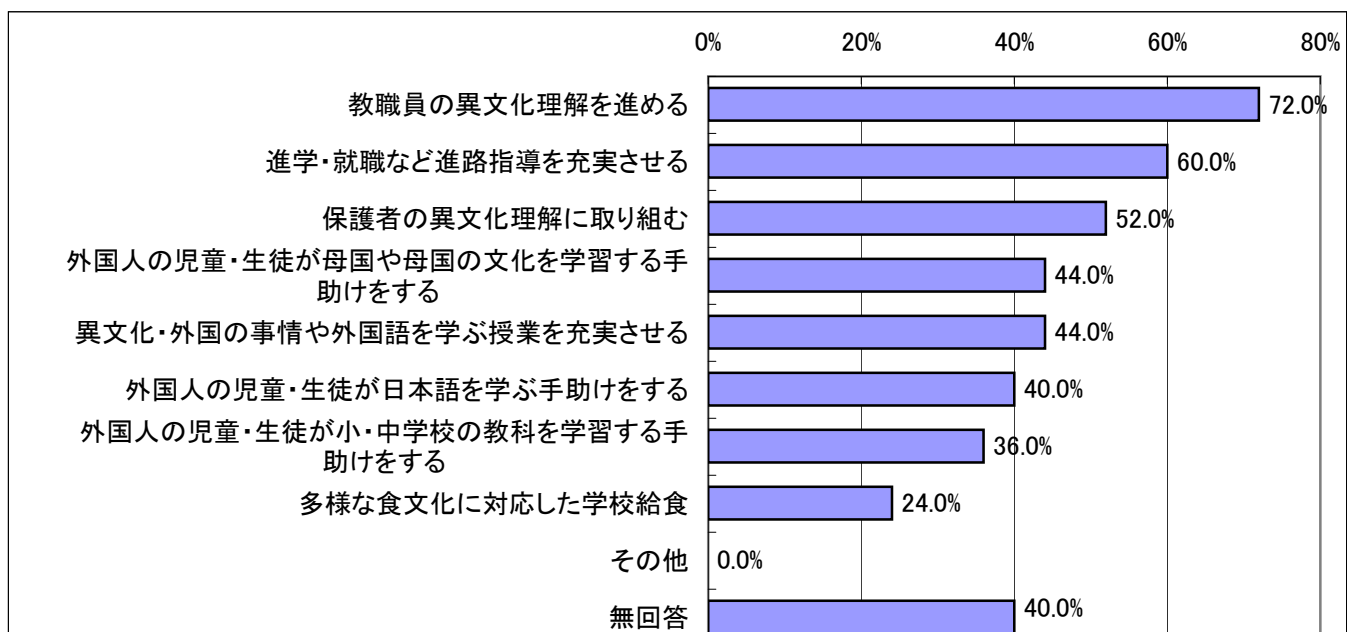


子育てで不安なことを相談する人・ところを選択した人が7割強です。

問 1 4 . 日本 の 学 校 に 望 む こ と (複 数 回 答 あ り)

※ 小学生以上の子どものいる家庭25名に対しての質問になります。

項目	合計	割合
外国人の児童・生徒が日本語を学ぶ手助けをする	10件	40.0%
教職員の異文化理解を進める	18件	72.0%
外国人の児童・生徒が小・中学校の教科を学習する手助けをする	9件	36.0%
外国人の児童・生徒が母国や母国の文化を学習する手助けをする	11件	44.0%
異文化・外国の事情や外国語を学ぶ授業を充実させる	11件	44.0%
保護者の異文化理解に取り組む	13件	52.0%
進学・就職など進路指導を充実させる	15件	60.0%
多様な食文化に対応した学校給食	6件	24.0%
その他	0件	0.0%
無回答	10件	40.0%
合計	93件	—



教職員の異文化理解を進めてほしいと望んでいる方が7割強です。

問15. 日本でよりよく生活するために、あなたが意識して行っていることや、周りの人たちと助けあっていることはなんですか？の回答

* ()内は性別・母国・日本に住んでいる年月の順です。

【10歳代】

- ・私は現在日本語学習に励んでいます。日本で一層素敵な生活を送りたい。日本人は素質があり、礼儀正しくて、尊敬するに値します。(女性 中国 日本に住んでいる年月の記入ナシ)
- ・日本人と話しをします。日本人は私に日本語を教え、私は彼らに中国語と中国の文化を教える。
(女性 中国 半年)
- ・私は仕事を一所懸命しなければならないし、日本人のような日常生活を学びたい。
(女性 フィリピン 3か月)
- ・一所懸命働くよう努力したい。(男性 フィリピン 3か月)
- ・ここに住むための勉強や、困難なことを避けることができるよう、日本語や日本について学習しなければならない。(男性 フィリピン 3か月)

【20歳代】

- ・ボランティアに日本語を習っています。(男性 中国 3年)
- ・日本語教室に行って学習し交流します。(女性 中国 3年)
- ・中国人の良いイメージを樹立し、中国人が自らの胸に抱く印象を変えたい。(男性 中国 3年)
- ・日本語のマスターに努力していますが、これは日本人との交流に障害を起こさないことが最も基本的な前提です。よく付近の公民館の日本語教室に行きますが日本人や日本社会を知るにはとても便利です。
(女性 中国 1年)
- ・祝日や休日に日本文化関連の活動に参加し、周りの人々と交流している。(男性 中国 1年)
- ・「郷に入りては郷に従え」です。(女性 中国 4年)
- ・周囲の人たちと良好な人間関係を築くために常に連絡を取り続けて、お互いに進んで理解しあいましょう。(男性 中国 6年)
- ・まず日本語の学習に努力します。そして日本文化や生活習慣を理解し、日本人と友だちになることです。
(女性 中国 3年)
- ・日本語で交流するのがとても重要だと思いますので、できるだけ日本語で交流していますが、まわりの日本人とはあまり交流していません。(女性 中国 3年)
- ・友人関係を持つこと、友達のイベントに出席すること。(男性 インド 1年)
- ・全ての人と良い関係を持つ。(女性 中国 1年)
- ・町の祭に参加する。日本語(外国語)の教室に行く。(男性 中国 3年)
- ・よく働き、日本を学ぶ。(女性 フィリピン 4年)
- ・色々な場所を訪ね、観光する。折り紙、活け花などのような日本の習慣を学ぶようにしたい。
(女性 インド 半年)
- ・私自身、または私の周囲の人達と、日本での生活を改善したい。私は日本人の人達と交流し、彼または彼女が行うことを尊重し、日本における全ての規則を尊重したい。(女性 日本 1年8か月)
- ・友達と一杯やること。(男性 中国 28年)
- ・日本の生活上のルールと文化・習慣を守り、できるだけ小さな声で話します。(男性 中国 3年)

- ・市役所の窓口で翻訳者がいてほしい。(女性 中国 7年)
- ・生活面では衛生を良好に保ち、室内では静かにするよう心がけています。仕事面では新しく来日した同僚の立場を理解しつつ、お互い良い関係を保ち、より良い仕事ができる環境を造ります。
(男性 中国 3年)
- ・外国人の定期的「文化交流会」を開催してほしい(女性 中国 7年)
- ・初めて日本に来た時、いろいろな言語上の障害があり、とても不安だったことをよく思い出します。
(女性 中国 7年)
- ・最近、帰化しました。何か役立つことがあれば是非協力したい。(女性 中国 7年)
- ・ゴミの分別をすること。(男性 中国 6年)
- ・引越したばかりですので、隣に住んでいる方とは話したことがないです。いろいろな日本の文化を学びたいです。(男性 韓国 2年)
- ・まず勉強をがんばっています。バイトも探しています。(男性 韓国 1年)

【30歳代】

- ・あいさつ。(女性 中国 日本に住んでいる年月の記入ナシ)
- ・親切にできるように心がけています。(女性 母国記入ナシ 半年)
- ・お隣の方に、中国の特色があるプレゼントを贈ったり、手作りの中国料理をあげます。
(女性 中国 7年)
- ・早く日本語をマスターすることです。(男性 中国 2年)
- ・目下、日本語の学習に努力しています。できるだけ早く日本の生活に適応し、同時に周りの人たちと交流し、情報のやり取りができることを希望しています。また皆が日本政府へ提供した奉仕の結果を享受できることを希望しています。(女性 中国 8か月)
- ・時間があるときには、周りの日本人と一緒に文化や生活などの交流を深めます。(女性 中国 6年)
- ・長期に渡る日本の生活の中で私は日本人の生活習慣を調べ、そして彼らの思考を理解しようと意識しています。その上で、彼らの考え方を尊重し、交流を深め、双方の交流の中で相手の方に中国人の思考をわかってもらいます。各種の活動に頻繁に参加し、郷里によく行きます。(女性 中国 14年)
- ・私の場合は、日本人である夫に日本語で多くの質問をする。そして、私が間違った日本語を使うたびに夫に訂正してもらう。昨年6か月間、漢字を勉強し、ここに来る前には日本語会話とひらがな・カタカナを勉強した。そして、1年間勉強を続けている。(女性 フィリピン 1年)
- ・日本人や外国人と一緒にバンドで演奏している。(男性 イギリス 6年)
- ・少しばかり日本語を習おうとしている。赤坂コミュニティーセンターで英語を教えている。
(男性 イギリス 6年)
- ・色々な場所を訪ねたり、観光したりして日本文化や日本語を知りたい。(男性 インド 半年)
- ・英語は国際語であり、病院や薬局、学校、銀行などの重要な場所で効果的である。市の情報、母子保護のお知らせは英語版で用意してほしい。災害情報(地震、台風など)も英語版を用意してほしい。
(男性 インド 1年)
- ・私は時々、日本人の深慮を理解できないときがある。(女性 フィリピン 5年)
- ・私は隣人と交流したい。(女性 フィリピン 5年)
- ・日本語を学ぶのみでなく、歴史、文化、習慣を学ぶ。(男性 ブラジル 14年)
- ・子育て中の親同士で交流をするようにしている。(女性 中国 10年)

- ・出来る限り日本の文化を理解し、順応していきたい。外国人の数が少ないので、東京に住むのに比べて快適でないと時々感じる。(男性 韓国 5年)
- ・日本にいるから、日本の文化を学ぶ。理解して生活がよくなるよう中国のよいところを日本の皆様に伝えたいです。(男性 中国 15年)
- ・まわりの人たちとたくさん交流している。交流の機会を持つように努力している。PTA メンバーとの情報交換などを通じて、PTA のことや子どもたちのことを優先しているのを参考にする。
(女性 韓国 11年)
- ・工場内でブラジル人への通訳を手伝っています。(女性 ブラジル 15年)

【40歳代】

- ・あいさつをする。(女性 中国 日本に住んでいる年月の記入ナシ)
- ・お友達を作る・わからないことは聞く。(女性 中国 2年)
- ・周りの人たちと共に子どもの安全問題に方法を講じることです。居住地域で困難に遭遇した時に、周りの人々と助け合えることを希望します。(女性 中国 6年)
- ・母国でない国にいても生活に困難があるとは思いません。私と似通った外国人の友だちもこのように思うでしょう。(女性 中国 8年)
- ・私は既に自分の母国で体験した職業上の特技を発揮していますが、よりよく支援するには手伝ってくれる人を探す必要があります。皆に情報を伝えたり、交流のチャンスを与えたり、また、彼らの能力にふさわしい物質的援助を施せば、きっと好評を得られるでしょう。(女性 中国 8年)
- ・日本で生活すると決めたら、まず日本語の習得に努め、日本文化への理解と日本人の生活習慣への尊重を深めるべきです。(中略)私の主人は日本人で、彼は私に代わって多くの事柄を処理できます。しかし、私はやはり自分が普通の日本人家庭と同様に妻や母親がしなければならない事柄をやり遂げることを望みます。しかしながら、所詮自分の日本語のレベルには限界があり、日本の教育分野まではわからないし、わずかな文書データや資料や情報などでは、全てを理解することはできません。入園・入学・進学などに関して十分な講座や指導をしてくださるよう、そして私たちが安心し、満足して、自信を持って良好な日本の生活が送れるよう強く希望します。(女性 中国 9年)
- ・私たちは中国から日本に来て、苦しい努力を経て、今の生活があります。最も悩むことは子供の教育問題です。子供ができるだけ早く学校生活に溶け込み、一緒になって遊べる友達ができることを希望します。(女性 中国 13年)
- ・まず、日本語の水準を高める必要があります。一定の日本語の基礎ができれば、はじめて日本人と前向きにお付き合いすることが可能です。その付き合いを通して、日本文化に対する理解を深めることができます。(女性 中国 11年)
- ・私は日本語をもっと勉強したい。そして日本社会の規範にどのように適応するか学びたい。私の周囲の人に対して、私は人間であり、日本の規則を完全に理解しているものではないことを理解してほしい。
(女性 フィリピン 16年)
- ・多分、私は日本を好きになるべきであり、実際にそうである。日本についての全てを学びたい。家族のために、そして平和な暮らしのために一生懸命働かなければならない。(女性 フィリピン 16年)
- ・自分が自信を持ち、自分を改善するために、この市のコミュニティの色々な活動に参加するのに時間をさきたいと思う。(女性 フィリピン 16年)
- ・語学教室で学び、日本についての本を読む。(男性 ドイツ 7年)

- ・できるだけ日本の習慣に合わせること。(男性 中国 24 年)
- ・日本人と私や私の子供たちとのコミュニケーション、人権尊重、平等であることを望む。
(女性 中国 13 年)
- ・日本人、特に年をとった人とうまく交流できるよう日本語や日本文化を学ぶ。
(男性 フィリピン 5 年)
- ・何かあった場合、お互いに学び合えるように、いつも尊敬の念を抱いて仲良くしようと努めています。
(男性 ブラジル 7 年)
- ・このあたりはいろいろと事件が多いようなので、子どもの外出には特に気をつけています。
(女性 中国 6 年)
- ・子どもの学校や塾などのことで、先生やこどもの友達やお母さんたちにいろいろ聞いたり、相談しています。(女性 中国 6 年)
- ・同じ中国人の友人・知人たちに聞いたり相談したりもしています。(女性 中国 6 年)
- ・ハングル教室。(女性 韓国 14 年)
- ・外国人に対して、特別に意識しないことが一番いいのだと思います。市役所としては外国人に対する制度づくりと環境づくりが大事だと思います。(男性 中国 22 年)

【50歳代】

- ・他人を助けるには手助けしてくれる人が必要です。また市が定めた方法でゴミを処分します。
(男性 中国 半年)
- ・公共衛生を保持し、住民と一緒に法律に従い、自分を守り、社会に有益な事柄をできるだけたくさん行います。(女性 中国 日本に住んでいる年月の記入ナシ)

【年齢記入なし】

- ・あいさつをする。(男性 中国 日本に住んでいる年数の記入ナシ)
- ・周りの人々とのふれあいとご近所のつき会い、催事の出席。(女性 フィリピン 3 年)
- ・日本の市役所業務を調べ、福祉制度を知りたい。(年齢・性別・母国についての記入ナシ)

※ この他にも沢山の回答をいただきましたが、内容が似たものについては勝手ながら省略させていただきましたので、ご了承ください。

朝霞市における国際化の取り組みの一例

■ 「マレーシアペナン州地域児童情操教育支援事業」(自治体国際協力促進事業(モデル事業))

長年の「絵を通じての友好」による交流を基本に、2007(平成19)年、認定特定非営利活動法人メイあさかセンターと市が協働して、マレーシアペナン州の児童13名と教育局職員及び教員6名を招き、1週間にわたる市内でのホームステイ、学校生活の体験・文化交流・美術教育研修等を、教育委員会・小中学校・市内の文化団体等との連携により実施した。



マレーシアと日本との児童画の交換会



日本文化を紹介する総合学習の授業体験

■ 市民企画講座

朝霞地区インターナショナルソサエティ(AIS)は外国人市民がより容易に、且つ快適に生活を送れるよう支援活動を行っている。支援の重点を日本語学習に置くと同時に、日本文化を理解し親しんでもらう為、行政との協働による市民講座を開催し、講演会、見学会、料理講習等を実施している。



日本語学習支援に関する講演会



料理講習

朝霞市国際化基本指針の策定経過

年 月 日	内 容
平成20年7月9日 ～7月31日	市民意識調査 国際化に関する市民意識調査(日本人市民対象) 実施
平成20年8月21日	(仮称)朝霞市国際化基本指針策定委員会委嘱状交付式及び第1回会議 (1) 正副委員長の選出 (2) (仮称)朝霞市国際化基本指針策定の概要について (3) (仮称)朝霞市国際化基本指針策定委員会の進め方について (4) 市民意識調査の中間報告について (5) (仮称)朝霞市国際化基本指針策定の資料について
平成20年9月19日 ～10月15日	市民意識調査 国際化に関する市民意識調査(外国人市民対象) 実施
平成20年10月8日	(仮称)朝霞市国際化基本指針策定委員会 第2回会議 (1) 市民意識調査アンケート(日本人市民対象)集計結果報告 (2) 市民意識調査アンケート(外国人市民対象)の進行状況報告 (3) 指針案第2章国際化施策の体系について
平成20年11月19日	(仮称)朝霞市国際化基本指針策定委員会 第3回会議 (1) 外国人を対象としたアンケートの集計結果について (2) 指針案の修正について
平成21年1月5日 ～2月5日	パブリックコメント 朝霞市国際化基本指針(素案)に関するパブリックコメント募集
平成21年2月24日	朝霞市国際化基本指針策定委員会 第4回会議 (1) パブリックコメントについて (2) 指針案について

朝霞市国際化基本指針策定委員会設置要綱

(設 置)

第1条 朝霞市国際化基本指針（以下「指針」という。）を市民との協働により策定するため、朝霞市国際化基本指針策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を検討する。

- (1) 指針の作成に関すること。
- (2) その他指針を策定するために必要なこと。

(組 織)

第3条 委員会は、10名以内の委員で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 市内の民間国際化関係団体 2名
- (2) 朝霞市自治会連合会 1名
- (3) 外国籍市民 1名
- (4) 公募市民 2名
- (5) 朝霞市小中学校校長会 1名
- (6) 朝霞市関係課長 3名

(任 期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から指針の策定の日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会 議)

第6条 委員会は、委員長がこれを招集し、議長となる。

- 2 委員長が必要と認めたときは、関係者に対し出席、又は資料の提出を求めることができる。
- 3 委員会の会議は公開とする。ただし、審議会等の会議の公開に関する指針第5項の規定に該当すると認められるときは、委員会に諮って非公開とすることができる。

(庶 務)

第7条 委員会の庶務は、市民環境部地域づくり支援課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この要綱は、平成20年5月27日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年1月1日から施行する。

朝霞市国際化基本指針策定委員会 委員名簿

役 職	氏 名	所 属 等
委員長	林 眞 守 (はやし まもる)	朝霞地区インターナショナルソサエティ (A I S) 代表
副委員長	島 礼 次 (しま れいじ)	朝 霞 市 自 治 会 連 合 会 会 長
	尾 池 富美子 (おいけ ふみこ)	認 定 N P O 法 人 メ イ あ さ か セ ン タ ー 代 表 理 事
	李 兵 (リ ビン)	亜 細 亜 大 学 国 際 交 流 部 国 際 交 流 課
	蒲 田 秀 男 (かまた ひでお)	公 募 委 員
	吉 識 日奈子 (よしき ひなこ)	公 募 委 員
	八 代 豊 (やしろ ゆたか)	朝 霞 市 小 中 学 校 校 長 会 国 際 教 育 担 当
	田 中 幸 裕 (たなか ゆきひろ)	総 務 部 人 権 庶 務 課 長
	田 村 道 子 (たむら みちこ)	健 康 福 祉 部 子 育 て 支 援 課 長
	丸 山 義 治 (まるやま よしはる)	生 涯 学 習 部 生 涯 学 習 課 長

朝霞市国際化基本指針

平成 2 1 年 4 月

発 行 : 朝霞市

編 集 : 市民環境部地域づくり支援課

〒 3 5 1 - 8 5 0 1 朝霞市本町 1 - 1 - 1

TEL : 0 4 8 (4 6 3) 2 6 4 5

FAX : 0 4 8 (4 6 3) 2 2 9 4

E-mail : tiiki_sien@city.asaka.saitama.jp

URL : <http://www.city.asaka.saitama.jp>